

# 路上から撃て

## 新宿編 PART II



山谷労働者福祉会館・人民パトロール班  
台東区日本堤1-2-5 103 (3876) 707333  
☎03(3872)7109 103 (3876) 707333  
郵便振替口座 00140-5-715883

新たな叩き出しを準備する「都区検討会」「実態調査」阻止！  
3・18. 4・20. 5・1等連続新宿闘争資料集

発行 1994・5・12  
カンパ込み 500円



## 「緊急越冬対策」終了に関する声明

1994・3・15

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班

本日をもって「路上生活者等緊急越冬対策事業」の実施期間が終了する。この「緊急越冬対策」は、東京都企画審議室、福祉局、関係福祉事務所長、特別区人事厚生事務組合、特別区協議会が昨年末から連絡調整しながら着手した、都区一体の「路上生活者」対策の第一弾であった。

しかし、2月17日の新宿での事態に象徴されるよう、この「緊急越冬対策」とは、都下でアオカン（野宿）を余儀なくされた労働者を、一方的に追い出し、寝床を奪い、一時的に施設に收容すること、とりわけ、「国際都市東京」のお膝もとである新宿都庁へ向かう地下通路でアオカン（野宿）する労働者の掃を画策するためにのみ行なわれた「対策」であることは、いくら東京都が「人命保護」「環境美化」だのと公表しようとも、隠し得ない事実である。

都下でアオカン（野宿）せざるを得ない労働者の実像は、何を東京都につきつけているのか？日本経済の歴史的な低迷の中「大失業時代への到来」と言われているその現実的な都下全域での失業実態であり、鈴木都政以来なんら有効な施策をうごすに、放置してきた山谷対策（都下の日雇労働者対策）の破産、失策の結果である。高度経済成長時の大都市東京作りに日雇労働者層を山谷（寄せ場）にプールし、とことん動員し、利用してきたにもかかわらず、その後の就労保障、生活保障を何もせず、景気浮揚の中に労働者を放り出し、ヤクザ支配の闇手配業を放置しながら、ただただ、治安対策としてのみ、山谷対策を行使してきた施策のツケとして今日の事態がある。すなわち、日雇労働者層の高齢化、建設資本の労務供給システムの変化、そして、今日の大不況という事態のなか、加速しながら山谷（寄せ場）や、非合法な人夫出し飯場から、失職した労働者が都下に散らばり、闇手配飯場や、飯を求めてアオカン（野宿）するという事態に発展したのだ。これを大きな要因としながら、都市住宅問題、農政問題、製造業分野での失業問題がミックスする形で複合的に進行しつつあるのだ。

自らの施策の失敗を棚に上げ、これらの問題を「都市問題」とひとくくりにし、かや、排外主義をあおりつつ、アオカン（野宿）する個人の資質まで強調し、彼等は働く意欲のない「浮浪者」だと規定し、叩き出し、收容するという今回の東京都がとった一連の「対

策」は、自らの責任を隠蔽するどころか、そのあまりにも非人道的、人権無視のやり口から、アオカン（野宿）労働者はもとより、一般市民、福祉労働者などからも猛反発をくらいい、東京都の責任を問うという逆な形での「社会問題」となりつつある。

3・15以降の具体的な施策はない。

各区から大田寮に收容されていた生活保護法での收容者約60名は、更生施設、宿泊施設はないしは、ドヤ、アパートでの居宅保護等、保護継続がなされているという。これは福祉が当り前のことをやったにすぎない。わざわざ大田寮を使わなくても出来ることである。

結果として残っていることは、新宿から生活保護法外で延べ200人前後のアオカン（野宿）労働者をたった2週間だけ收容し、その間に、新宿での「環境整備工事」なるものを実施しながら、彼等の寝場所を奪い去ったことだけである。が、多くの労働者は、東京都の意図とは裏ばらに、新宿に戻り、更に結束し、東京都や新宿福祉へのたたかいを強めている。

「人命保護」の美名は、この「緊急越冬対策」期間中に新宿で亡くなった2名の労働者が、その汚らしい行政用語の本質を暴露している。

3・15以降、事態は元に戻る。そして深刻化する。先め見通しもなくたてられた「緊急越冬対策」のツケが更に問われてくるだろう。

良くも悪くも 今回の「対策」の中、約60名の労働者に生活保護を適用した。今後、「対策」が終了したから出来ませんとは私達は言わせない。先にも述べたように、これは、当り前の福祉行政だからである。今回アパート、ドヤ（簡易宿泊所）での居宅保護を少なからず認めた。これまでは施設が一杯だから「保護出来ない」といっていたのが公式見解であったが、今後はこれも通用しない。施設がないのなら居宅保護を率先して行なえばいいのだ。

「一時しのぎの施策」を取るたびに、ボロはいくらも生み出される。それを繕うために、また「一時しのぎの施策」を取る。東京都はついにドコ船に乗ったのだ。

あとは、強権発動の道しか残されていない。が、一度見せた刃は、二度目には通用しなくなる。

「緊急越冬対策」は失敗だったのだと、私達は断言する。

私達はアオカン（野宿）労働者の仲間と結びつき労働者としての正当な権利を主張しながら、東京都、新宿福祉へのたたかいを今後も継続していく

一、「二・一七」はなんだったのか？

仲間たち！

二月十七日、東京都によってうちおろされた、おれ達に対する「叩き出し作戦」は、一体なんだったのか？これは、今までの「追い出し」とは、明らかに違った「追い出し」なんだということは、みんなも肌で感じていることだろう。

今までの「追い出し」は、みんなが「イッセイ」と呼んでいる火曜と金曜に行なわれていた建設局の「路上廃材撤去作業」か、ビルのガードマンや駅職員の「追い出し」か、オマワリによる「追い出し」だった。新宿以外でもそうだった。浅草の商店街で、店先にロープをはって、商店街の連中が夜まわりをしながら追い出すということがやられていたのが、ちょっと大がかりな唯一のものだった。

が、今回の「叩き出し」は明らかに違っていた。

まず、東京都の企画審議室という、いろんな東京都の政策などの実施プランをたてている所が先頭になって、福祉局や、建設局、新宿警察、はてまた新宿福祉事務所までも動員したことだ。東京都が組織だって計画した「叩き出し作戦」だということである。東京都がこんなことを先頭になって行なうなんてことは始めてのことだ。これが今回の一番の特徴であり、問題である所だ。

そして、追い出しをした後、二度とアオカン（野宿）出来ないようにするため、フェンスや、花壇を設置したことだ。これは、いやがらせでもなんでもなく、実際にアオカンが出来なくさせるための具体的な方策を取ったということだ。

しかも、その上で、新宿福祉が出てきて、「人命保護」といいながら、多くの仲間を大田寮に一時的にプチ込んだことだ。「叩き出し」を「叩き出し」ではないと言いくるめるために、周到に用意された施設が大田寮という訳だ。

これは、何を意味するのか？東京都がついにおれ達を「排除」するために、組織だって動き出したということだ。まずは、新宿でこの動きが始まった。が、これは、新宿だけの問題じゃない。区内全域でこの動きが広がるとおれ達は考えている。

では一体誰が悪いのか？

が、ちょっとまで。おれ達には「排除」される言われはどこにもない。

おれ達は、「高度経済成長」といわれる日本の「成長期」に資本家やオヤジ共にこき使われながらも一生懸命働き続けた労働者だ。今、仕事がなく、あるいは、病をかかえ仕事が出来ず、ないしはいろんな事情がありアオカンしているからと言ってその何が悪いのか？

悪いのは、おれ達をさんざんこき使った挙句に「使いすて」た資本家やオヤジ共じゃないのか？悪いのは、おれ達を国や都の政策として寄せ場に集めておいて、いらなくなったら何の保障もしない国や都じゃないのか？

国や都はおれ達、下層で暮らす者たちを見て見ぬふりをして来た。失業対策をするでもなし、生活保護を積極的に適用するでもなし、「浮浪者」だとか「ホームレス」だとか、勝手な呼び名をつけて、「こんな生活をしてるのは自分が悪いんだ」と、放置してきた。唯一やっていることと言えば、日雇労働者の街、山谷で暴動が続いた時から、二度と暴動が起こらないようにと、治安問題を軸にした、「アメとムチ」のとんでもない「山谷対策」をやっているにすぎない。寄せ場で仕事がなくなり、駅や公園の最低賃金以下の「ケタオチ」の「タコ飯場」におれ達が行かざるを得なくなっても奴らは知らんぶりだ。本当にひどい飯場でも奴らは問題が表に出ない限り、放置し続けてきた。飯場から出て、アオカンせざるを得なくなっても同じだ。「勝手にどこかへ行って死んでくれ」とばかりに、おれ達を追い出し、あるいは、ケタオチの病院に狩り込み、病院か道の上で野たれ死にをさせる。

おれ達を見て見ぬふりをしてきた「ツケ」が今、東京都におそいかかっている。国や東京都が何もしなかった間に、この空前の不況と、建設業の産業合理化などによって日雇労働者や、中小で働く下層の労働者が続々と職を失い、アオカン（野宿）に追い込まれ、東京都としてもさすがに隠すことの出来ない、また見過ごすことの出来ない「社会問題」となってしまったのだ。

これを東京都として、どう「解決」するのか？二つの選択があった。



一つはおれ達の正当な権利を認め、失業対策などをきちんとやり、それでも仕事につけない者は、仕事につくまでは、生活保護をかけ、おれ達の生活を国や都や区が責任をもって養うこと。

二つめは、とにかく行政のもっている力で「叩き出し」、おれ達を出来る限り、分散させ、人知れずおれ達を野たれ死なせ、「社会問題」になっている「人間」、つまりおれ達自身を「処分」しようとする事。

みんなも分かる通り、今回の東京都の「作戦」は、明らかに二つめの選択肢を取ったものだ。

が、「人しれず殺されてたまるか！」おれ達はたたかいたちあがった。

三、おれ達のたたかいはどんな意味をもっているのか？

おれ達は、本当に東京都に殺されるか殺されないかのその瀬戸際からたちあがった。確かに、新宿ではたたかひの蓄積がないので、山谷からの支援というかたちで一緒にたちあがったけど、このたたかひは、新宿の仲間が先頭にたつて切りひらいたものだ。新宿の仲間が中心になってやってきたたたかひだ。（本当は、もっと早く、おれ達が、新宿の仲間とつながっていく必要があったのだけどそれが出来てこれなかったことをおれ達自身は反省している）

新宿の仲間が先頭になって、連続して東京都や、新宿福祉に押しかけ、たたかひを広げてきたことは、東京都の目論見を一つ一つうちくदैて来ている。まさか、東京都はおれ達がたたかひにたちあがるとは、思ってもみなかっただけに、動揺しまくり、混乱しまくっているんだ。おれ達がたちあがったことにより、東京都が隠そうとした「社会問題」が、逆に大きな「社会問題」として東京都につきささっている。

「一時しのぎの収容をするな」とたちあがることにより、大田寮の収容が、始め1週間の予定が、2週間に延長され、六十五歳以上の生活保護で収容した仲間に関しては、大田寮が閉鎖された後も、入院や施設からの入院、ドヤやアパートでの居宅保護を克ち取った。

「荷物を返せ」とたちあがることにより、仲間と共に、多くの荷物を具体的に奪い返した。そして、建設局は荷物の撤去がそんなに頻繁に出来なくなり、形式的なダンボールの撤去しか出来なくなかった。そして、「保管期限」の延長を克ちとった。

「あたり前の生活保護を出せ」とたちあがることにより、一緒に福祉に行った仲間が、ドヤからの通院を克ちとった。おれ達のたたかひは、このように具体的な成果を次々と克ち取っている。確かに全体からみれば小さな成果だが、確ににおれ達のたたかひは敵の目論見を打ち破っているんだ。

そして、おれ達のたたかひは、社会的にも大きな反響をよんでいる。

人パト班のピラを読んで、「今までの考え方が変わった。頑張って下さい」と都庁に勤めている労働者から手紙が来た。また北海道新聞の記事を見て、「支援をしたい」と多類のカンパを寄こしてきた人もいた。自治労・都職労民生局支部も「見解」を出した。おれ達のたたかひは、山谷の仲間だけじゃなく、多くの労働者から支持されているんだ。

何故こういう成果をかちとったか？それは、おれ達がバラバラにされ、行政のいいなりになるんじゃない、みんなでもとまり、団結していったことだと思う。一人一人じゃ、誰たって弱い。だけど、同じ境遇の仲間がまとまり、団結することにより、おれ達は強くなれる。この団結という力によって、東京都という巨大な組織を相手に、奴らを混乱させることすら出来たんだ。おれ達は一人じゃ生きていけない。お互い助けあい、横のつながりをつくりながら生きてきた。そして団結した力でもってたたかひを続けていくことにより、より一層のつながりが出来てくる。これがなによりも重要ことだと思う。

四、これからのたたかひをどうするのか？

奴らは、今言った、おれ達の「財産」である団結を破壊しよう狙ってくる。そして、一人一人バラバラにさせ、野たれ死にを強制してくる。

すでにインチキ野郎「下村」などは、そういう東京都のお先棒をかついで動きまわっている。「山谷の連中とつきあうな。奴らは暴動をおこそうとしている。そんな奴らとつきあっていたら、とんでもないことになる」と言いふらしている。また3月で新宿からいられなくなるなんて噂をまいたのもこの「下村」だ。「下村」はマスコミや役人の前では、善人づらをしているが、実は、おれ達のたたかひをつぶそうと思っているとんでもない奴だ。寿や、代々木でも同じような役割をしてきたふだつきの「偽善者」だ。

その他にも、おれ達の団結を破壊するために、東京都や新宿区はいろんな手をつかう。おれ達と一緒に福祉にいった仲間が、福祉の職員から「山谷の人間とはつきあうな。つきあっていると福祉を切るぞ」と脅かされた。おれ達の命を手玉に取って分断をはかる。また、ポリがこの間のたたかいに参加している仲間の写真を取るなど、権力をかさにきた、あからさまな圧力をかける等々。

まず、この間つちかかってきたおれ達の団結を守りきらなければならない。こういった分断の攻撃があった時は、すぐさま仲間どうし連絡しあい、それを打ちかえそう！確かに、仕事に行ったり、病院に入ったりと新宿からはなれるときもあるかも知れないが、心のなかで新宿の仲間と固く結びついて、飯場や病院でも仲間をつくっていこう。

そして、今、東京都はおれ達を排除するための新たな準備を進めている。「都区検討会」というものだ。東京都と23区の福祉事務所の連中があつまり、おれ達をどうやってうまく「処分」できるのかを検討する会だ。そして、そのための「実態調査」というのをやろうとしている。おれ達は、あらたな2・17を準備するこの「都区検討会」と「実態調査」をおぶつつぶしていかななくてはならないと思う。

おれ達は、人間として、労働者として、当り前のことを要求してきた。荷物を奪うな！寝場所を奪うな！奪った荷物を返せ！働けない仲間に生活保護を出せ！アオカンしながら通院させるな！おれ達の人権を守れ！

今後ともおれ達は、これら当り前の要求を一つ一つ実現させるためのたたかいを続けていこうと思っっている。そうすることでも2・17の責任を一つ一つ取らせていこう！

たたかいは、長期のたたかいになる。そうすぐに解決するようなことがらは、ほんのわずかしかないと思う。が、おれ達は団結しながら一つ一つたたかいを進めていこう！一人一人仲間を集めていこう！そうする中でこそ、東京都や新宿福祉を変えていける根拠が生れてくる。山谷や新宿以外の駅や公園で同じようにアオカン（野宿）している仲間と、もっともつと結びついていこう！

山谷のおれ達も精一杯の努力をする。共に、頑張ろう！



# 東京都による野宿労働者の叩き出しを許さない

## 4・10集会 基調(案)

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班  
山谷を支援する有志の会

一、二月十七日、新宿から  
たたきだされた野宿労働者

去る二月十七日、東京都は、新宿駅西口地下道にフェンス、鉢植えを設置する「環境整備工事」に名をかりて、野宿労働者の「ダンボールハウス」二百あまりをいっせいに撤去していきました。「(野宿労働者は)悪臭をはなつ」「環境を悪化させている」などの理由から、西口のビル、商店街などをつくる「中央通り管理委員会」が都に「改善要求」をだし、企画審議室が音頭をとって、建設局、道路公団、そして新宿署が一体となっておこなわれたこの野宿労働者のたたきだし。そのやりかたは、まるで「ひとをゴミのようにあつかう」ものでした。「ここからどけーダンボールをたたためー」と威嚇してまわった作業員、警察官。どうとしない労働者には、ハウスの強制撤去でこたえていった。

一方、都福祉局は、「路上生活者等緊急越冬対策事業」の一環として、この日、新宿区福祉事務所とも連携し、野宿労働者への「街頭相談」をおこなって、百十八人を大田区東海のプレハブ施設「大田寮」へ入室させ、四人を都内の病院に入院させました。

入室へ入室した百十八人のうち、たしかに六十五歳以上の労働者二十七人に対しては、生活保護法が適用され、一カ月間の入室が可能となりました。うち何人かは、一カ月をすぎ、大田寮を退寮となったいまも生活保護が継続され、更生施設「上野一時保護所」などで日々の生活をいとわんでいます。が六十五歳以下、残りの九十一人には生活保護が適用されず、いわゆる「法外保護」の名のもとに、わずか二週間の入室でふたたび路上へとほうりだされてしまいました。ここに、野宿労働者など「しせん法律外の人間」という都・新宿福祉の基本的なかんがえかたが、あらわになっっているといえるでしょう。しかもこの二週間の入室は、新宿福祉によれば「当初一週間の予定だったが(私たち山谷からの批判をあび)、もう一週間延長した」というもの以外ではありませんでした。

## 一、新宿福祉の街頭相談 もズサンそのもの

街頭相談のやりかたもズサンそのものでした。ケースワーカーが、ひとりの野宿労働者からの相談についてやした時間はたった二分一分で最近の生活状態が、健康状態がわかるとでもいうのでしょうか。そもそもこの日、病院への入院者が四人と極端にすくなかったのはなぜな

のでしょうか。他区のある福祉事務所の職員はこうはなしています。「先日、新宿で街頭相談を受けたが入院できず、大田寮へまわされて、イヤになって退寮してきたひとのめんどろをウチでみた」「さすがに入院させた。何せ頭蓋骨が陥没していたので」(一)。またちがう区の福祉事務所の職員は、この新宿福祉の街頭相談にふれて「あれはホームレスの排除の一環、保護じゃない」と明言していました。さらにこの職員はつづけて「新宿福祉のヒドさはいまや二十三区でも有名」ともつけくわえてくれました。それはそうでしょう、たとえば新宿福祉では、かねてから「施設がない」ことを理由に、相談にきた野宿労働者に野宿のまま病院にかよわせるといった「保護」をくりかえしおこなってきたのですから。

## 二、野宿労働者は たたかいたちあがった!

いずれにしても、私たちは二月十七日、野宿労働者の都内全域での急増がおおきな「社会問題」となるなか、都・新宿福祉が合同で強行した、新宿・野宿労働者のいっせいたたきだしと一時しのぎの施設収容をせつたいにゆるすわけにはいきません。「緊急越冬対策事業」でうたわれていた「人命保護」とは、ようするにこのザマだったので。もとより、いくら都・新宿福祉が野宿労働者をたたきだそうと躍起になったところで、それはどだいムリなはなしといえるでしょう。かりにいちどたたきだしたにしても、いき場のない野宿労働者は、また新宿へとどつてくるほかないからです。

が、二月十七日以降も、東京都、建設局は、しょうこりもなく野宿労働者のハウス撤去を強行しています。この間の一連の野宿労働者たたきだし作戦に対し、私たちは「当事者」の労働者とともに、都・新宿福祉に何度もおしかけ、怒りの声をぶつけてきたことはいまでもありません(資料「ドキュメント新宿闘争」参照)。また四月一日、新宿駅西口地下「電話の広場」までひらかれた「東京都によるたたきだしをゆるさない!新宿・労働者のつどい」には、新宿の野宿労働者、百五十人を先頭に、山谷の労働者、支援の仲間あわせて約、二百人近くがあつまり、成功裡におえることができました。いまや新宿の労働者のたたかいは、社会的にもすくなからぬ注目をあびるにいたっています。



#### 四、野宿労働者の急増、都内への分散のなかで

私たちが新宿でのたたかいはあけくれているうちに、三月十五日をむかえ、二月十四日から実施されてきた、おもに「新宿対策」としてあったといえる都の「緊急越冬対策」も終了しました。新宿をはじめ、都内各地で野宿を余儀なくされた多くの労働者をほったらかしにして、新宿四百人、山谷三百人、上野二百人……。いまや都内で千五百人をかぞえる野宿労働者。そんな野宿労働者のほとんどが、いままで土木・建設業ではたらいまわされた日雇労働者です。かれらは幾重にもわたる下請構造の最末端で、たとえばヤクザ業者に低賃金でコキ使われ、あげく使い捨てられてきた存在だといえます。ここ数年来の不況は、そんな日雇労働者をモロにおそい、かれらの多くを野宿へ、そして「野たれ死に」へと追いやってきました。

出口のない不況がつづく現在、野宿をしいられた日雇労働者にとって「医療・福祉」が緊急の課題としてみがびあがってきていることは事実です。が都・区は、二月十七日、新宿でのやりかたにみられるように、野宿労働者に対しては「いちどもまともな策を講じたこと」はありませんでした。

仕事、寝場所、そして「残飯」をもとめ、野宿労働者が都内各地へと分散しつつあるいま、極端にいえば都内どこでもかれらとあえるようになってきたいま、私たちは何ができるのか。日雇労働者のまちであり、都内最大の「寄せ場」である山谷で、以前から野宿労働者への炊き出し・医療相談活動「人民パトロール」をおこなってきた私たちは、この問いについてひとりでも多くのみなさんとともにかんがえていきたいとおもいます。いきいきとした集会とともに！



#### ドキュメント新宿闘争 (2/17~3/18)

- 94. 2/17 東京都によるアオカン労働者一掃作戦が開始。人パト班すぐさま新宿に駆けつけ監視行動
- 2/19 緊急新宿人パトを展開
- 2/21 対都抗議行動第1弾を新宿の仲間を先頭に約20名でたたかう。企画審議室、建設局、新宿区福祉事務所に抗議文を叩きつける。夕方記者会見で「声明」を発表
- 2/22~25 緊急広域人パトを決行！池袋、馬場、渋谷、東京、銀座を連日パトロール



- 2/23 大田寮へのビラ入れ工作第一波 午後ダンボール撤去行われる。
- 2/24 新宿泊り込み人パトを展開
- 25 朝、情宣時にダンボール撤去を発見 すぐさま仲間と共に抗議行動を展開 同日、対都行動第2弾建設局に対する荷物奪還闘争を新宿の仲間10名を始め 総勢25名の結集でたたかう。
- 3/1 大田寮へのビラ入れ工作第二波 多くの仲間と交流



- 3/3 新宿泊り込み人パトを展開
- 3/4 対都行動第3弾生活保護をよこせ闘争を新宿の仲間45人を先頭に総勢80名の大結集でたたかう。福祉に要求書を叩きつける。午後から都庁内をわたり歩き、荷物奪還闘争を貫徹!
- 3/7 大田寮へのビラ入れ工作第三波 同日記者会見にて、闘争報告と福祉内部資料を暴露
- 同日新宿ビラまきパトロール
- 3/8 一人の仲間が亡くなる
- 3/11 早朝、一人の仲間が亡くなる ダンボール撤去 同日、新宿泊り込み人パト 30名の仲間と共に労働者パトを展開
- 3/12 20名の仲間と共に新宿区福祉事務所に突入 職員、職制の敵対はわのけ、2名の生活保護を獲得!



- 3/13 大田寮へのビラ入れ工作第四波
- 3/15 緊急越冬対策終了 「声明」を発表、弾劾情宣貫徹 同日、ビラまきパトロール
- 3/17 第三建設事務所職員が西口地下通路に出向き、荷物の引き取りを伝えて歩く。同日、フェンス内工事が開始される。同日、新宿泊り込み人パト
- 3/18 対都行動第4弾建設局への荷物奪還闘争、福祉局に対する抗議文叩き付け行動を、新宿の仲間40人を先頭に総勢90名の結集でたたかう。同日、代表団による第三建設事務所への要求書叩き付け行動も行ない、荷物の「保管期限」延長を克ち取る



あら 新たな叩き出しをたくらむ 「都区検討△△」  
「実態調査」を許すな！ 五・一 新宿労働者集△△

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班からの提起

仲間たち！

二月十七日、東京都によってうちおろされた「叩き出し作戦」以降、おれ達、新宿でアオカン（野宿）する労働者は本格的にたたかいへとたち上がった。新宿でアオカンする労働者全員の怒りを体現し、新宿でアオカンする労働者全員の利益のために、おれ達は立ち上がったんだ。

東京都はおれ達を「浮浪者」「ホームレス」「路上生活者」などと、働く意欲のない者と、勝手にレッテルを張り、おれ達の人権すら踏みじり、叩きだし、おれ達が寝ていた場所にフェンスを張った。「人命尊重」で保護しますよといっても、正式な生活保護を適用したのは、ほんのわずかで、ほとんどの仲間が「法律外」の人間あつかいにされ、たった2週間だけの「収容」でごまかされた。

だが、おれ達は東京都が言うように、働く意欲がない者なのか？  
いや、それは、違う。

おれ達は、この国の「高度経済成長」なるものを支え、一生懸命働いて来た労働者だ。こき使われながらも、我慢を重ね、安い賃金で耐えぬいてきた労働者だ。

確かに今は、アオカンをしている。が、好きでアオカンをしている訳じゃない。仕事に行きたくとも、仕事があったくないからだ。年をとり、からだをこわして重い仕事につけないからだ。仕事が出来なくなっても福祉が面倒を見てくれないからだ。

こんな、おれ達の事情すら分かるうともせず、東京都はおれ達を叩き出しさえすればいいと本気で思っている。東京都にとって恥ずかしがっていることは、何も道路にダンボールハウスが立っていることだけじゃない。自分らが、東京の復興のために集めた労働者に対して、その後の就労保障や、生活保障をなんら一つもやってこなかった証として、おれ達がいることだ。いらなくなった労働力を使いすていくことが目の当たりにされることで、労働政策や、福祉政策の破綻が明らかになることを恐れているのだ。

だから、東京都は、おれ達を「浮浪者」だとか「路上生活者」だとか、働く意欲のない者として規定し、まともな政策をおこなおうとしないのだ。

「今まで一生懸命働いて、都市づくりに貢献してきた労働者をいらなくなったら、ゴミのように捨てるのは、何たる事だ」

「労働者の使い捨て」そんな批判をかむすために、東京都は、おれ達が労働者だったことをひた隠しにし、働く意欲のない「浮浪者」「路上生活者」だと、勝手に決めつけているのだ。

勝手に決めつけられてたまるものか。勝手に隠されてたまるか。胸をはって言おう、おれ達は、新宿でアオカンする労働者なのだ。

おれ達は、労働者として、いままでこき使われ、使い捨てられ、やられてきた、怒りをバネに立ち上がった。二月、三月と連続して、企画審議室、福祉局、建設局、新宿福祉に攻めのぼる対都行動をやり抜き、その力をもって、四・一集会を百五十名の結集で成功させ、四月、連続新宿福祉行動で新宿福祉に圧力をかけ、四・二〇新たな叩き出しを準備するために開かれる予定だった「福祉事務所長会議」を、山谷の仲間と結びつきながら、中止に追い込んだ。

おれ達がたたかいて立ち上がったことで、東京都と新宿区は、大あわてだ。おれ達が立ち上がることで、東京都や新宿区の目論見がどんどん暴き出された。人権を無視した叩き出し、強盗まがいの荷物の撤去、おれ達を法律外の間人あつかいにしたたった二週間の収容、アオカンさせながら通院させる新宿福祉の日常の実態。なんの根本的な施策すら出そうともせず、おれ達を「環境を悪くする存在」「きたない存在」「集団でいると、なにをしかすか分からない者達」と、「大都市における治安問題」として、勝手に規定し、暴力的に叩き出し、分散させ、欺瞞的に一時しのぎの援護でごまかし、野たれ死にを強制しようとする東京都の目論見が、おれ達のたたかいの中、満天化に明らかになったのだ。

これは、東京都にとって予想外の事態だった。それだけ、おれ達アオカン労働者をなめていた証拠だ。今までやられっぱなしだった怒りの蓄積が、どこに向かって行くのかすら東京都は予測しえなかったのだ。

おれ達、アオカン労働者をたたかいてたちあがらせたことが、東京都と新宿区にとって最大の失敗だった。

今、やつらの矛盾が、都と区のあいだで起こりはじめている。四・二〇の福祉事務所長会議が中止になったのもその



現われだ。東京都と新宿区の密約が進められて来た、二・一七の計画を他の福祉事務所は事前に知らされていなかっただけに、これだけ都の対応が社会問題化してしまった今となって、安易に東京都と新宿区がやったことに賛同出来ない。もし、賛同したら自分らの区でも同じような事態が引き起こされないと限らないと、戦々恐々なのだ。新宿区としても、自分らがやったことが、これ以上暴露されたら立場がない。おれ達のたたかひの炎に油を注ぐだけだと、これまた、戦々恐々している。

東京都と二十三区の協議が始まり、お互いに協力関係を作らなければ実施出来ない「叩き出し計画」であるのに、今、東京都と、各区福祉事務所は自分の所にツケがまわってこないようにと、責任のなすりあい必死だ。「叩き出し計画」の会議である「都区検討会」も、二月に開かれて以降、再開のめどすらたっていない。

当事者抜きで、秘密裏に計画した、叩き出すための施策だからこそ、東京都にとってなんの正当性もない。おれ達当事者が立ち上げれば、こんな計画はぶちやぶることが出来るんだ。

今、奴等はおれ達のたたかひが、静まるのを待っているだけだ。静まるのを待ってから、もう一度しようくりもなく叩き出しを繰り返そうとしている。そのために、おれ達の団結を破壊しようといろんな手を使って分断をはかろうとしてくる。

東京都の企画審議室の調査部がやろうとしている「路上生活者実態調査」もその一環だ。警察の権力を盾にして、おれ達、アオカンをしている労働者、一人一人を調べあげ、顔写真を撮り、指紋を取り、なにかあった場合すかさず、警察が弾圧できるようにする名簿を作ることが、その目的だ。「奴等は、まとまると、何をしかすか分からない」こんな勝手な、偏見に満ちたキャンペーンをはりめぐらせ、「実態調査」でおれ達の団結を破壊しようとたくらんでいる。また、東京都が表たつてやれないことを、民間のガードマンや、職員にやらせるなど、陰湿な叩き出しを繰り返し、おれ達にいやがらせをかけてくる。南側通路のフェンス内の工事が連休明けに終了しても、その場所には、おれ達を寝させないために、シャッターを作るなど、地下道の構造を変えて行くこともやりはじめた。出来るだけ「社会問題」にさせず、日常的な弾圧と、いやがらせで、おれ達をまいらせようとしているんだ。

こういう悪辣な手段をつかいながら、つぎの「作戦」をねるため、連休あけに、中止になった福祉事務所長会議を秘密裏にやり、都と区の矛盾を調整し、「都区検討会」の再開へとこじつけたいと東京都は画策している。が、そんなうまく事は進むか！

だが、油断は禁物だ。おれ達がつくってきた、団結が、たたかひが、崩れたとき、奴等は一気にやってくる。おれ達は、おれ達がつくってきた地平を維持しながら、奴等と立ち向かわなければならぬ。毎週木曜日の労働者パトロールで仲間内の団結をより深くし、金曜日のさまざまな取り組みを日常的な活動にしながら、「都区検討会」の再開を許さず、「実態調査」の動きをぶつぶししながら、新宿で生き抜くおれ達の力で、おれ達の問題を解決していこう。

山谷では、新宿の仲間のたたかひに、続けとばかりに、センター（東京都の山谷対策の法外援護機関）をうったたたかひが開始された。センター前で、アオカンの仲間が共同して炊き出しをつくり、センター前で、仲間同士一緒にアオカンしながら、センターや、おれ達のたたかひを妨害するマンモス交番、暴力グループに対するたたかひを連日くりひろげている。上野でも、台東福祉にたいする取り組みが開始された。今まで黙っていた、アオカンの仲間が、新宿の仲間の立ち上がりをきっかけに、怒りの声をあげはじめたんだ。東京だけじゃない。大阪の釜が崎でも、名古屋の笹島でも、横浜の寿や、川崎でも、福岡でも、アオカンの仲間は、なにもしない行政に対してたたかひにたちあがっている。おれ達新宿でアオカンする労働者のたたかひは、全国の仲間を鼓舞しているんだ。

連休中は、仕事は全くなし、行政もしまり、おれ達にとって本当に厳しい時期に入る。こんな時期だからこそおれ達の横のつながり、団結が大事になって来る。今日、ここで、出会った一人一人の仲間が、つながっていけば、本当におきな力だ。

行政に頼ってられないのだから、おれ達は自前の団結で、仲間うちの力で、いろんな問題を解決していこうじゃないか。

例えば、体の弱い仲間や、高齢の先輩がひとりぼっちでいたら、みんなで声をかけあい、励まし、知り合いになり、一人で飯を探しにいけないのなら、みんなで飯を探しにいくとか。これはやばいなと思う仲間が苦しんでいたら救急車を呼んで、一緒に病院までいくとか、みんなで支えあい、横のつながりをつくって、この厳しい連休中を乗り切ろう。

今日は労働者の日、メーデーでもある。おれ達アオカン労働者も、これを機により一層団結し、敵に労働者魂を見せつけてやるような、そんなたたかひを、今後つくっていかうじゃないか！全国の仲間と結びついてたたかおう！



# 要求書

東京都第三建設事務所長殿

わたしたち、山谷労働者福祉会館・人民パトロール班と、日雇全協・山谷争議団は、さる二月一七日、新宿西口地下道で行われたアオカン（野宿）労働者への強権的な叩き出しと荷物の撤去―強奪、「西口環境整備工事」なる居住地へのフェンス張り工事、および、街頭相談における大田寮への一時しのぎの収容、これら一連の諸「事業」に係わった関係官庁に対し、強く抗議している団体である。

これらの諸「事業」は、新宿でアオカンを強いられながらも、生活し続けてきた労働者たちを一方的に新宿から追い出し、労働者間のつながりを断ち、バラバラにさせて、野垂れ死を強制していくことを目的とし、一方で掲げられた「人命保護」が名目にしか過ぎないことは、大田寮の閉鎖（三月一五日）以降、アオカン労働者への「人命保護政策」を一切持たない東京都の無施策ぶりを見ても明らかである。

かかる「事業」は「叩き出し作戦」の中で、とりわけとも労働者たちの命を守る生活資財の一切を強奪する行為に直接手をかけ、さらに「環境整備」の名の下で、「事業」主体として西口地下通路にフェンスと植木を設置し、寝場所すらまでも奪ったのが、都第三建設事務所である。その犯罪性と責任は重い。

第一に、労働者たちに何の予告も無く、突然職員多数を動員し、「ここからどけ！荷物をどかせ！ダンボールをたたため！」と頭ごなしに怒鳴りつけ、寒さから身を守るためのダンボール・毛布等、労働者の荷物の一切を強奪する行為は、厳寒の冬の路上に身ぐるみ剥いで放り出す事と同じであり、殺人行為そのものである。

都・建設局の職員は、「路上に置いてあるもので、貴重品はない」と言い放ったが、命を守るための生活資財は、命を防衛するためのなくてはならない貴重なものである。

第二に、労働者たちの荷物を強権的な力をもって勝手にゴミ袋につめこみ、トラックで次々に運び去る事は、まぎれもなく強奪行為であり、権力を傘にきた強盗意外の何ものでもない。

勝手に奪い去った持物を「保管」するなどという言い分は、世間の常識では通用するはずがないのである。

第三に、奪い去った荷物を持ち主の手に返すには、まず強奪したことについて謝罪し、その上で持ち主のいる場所まで持ってくるのが当り前であるはずだが、第三建設事務所は、「告知書」なる紙きれを地下通路に貼りつけただけで、職員を派遣して労働者一人一人に説明するなどは一切していない。さらに「告知書」は、「持ち物をとり除き、保管しますので受領に来て下さい」と、一方的な通告文として書かれ、「受領の際はあらかじめ電話にて日時を打合せて下さい」と、電話連絡までも強制しているのである。電話代のない者は、荷物を取り戻すこともできない。

第四に、「告知書」には「保管期限」として「三月一八日（金）迄」と書かれ、「保管期限を経過しても受領しない場合は不要品とみなし廃棄等の措置をとります」とある。人の荷物を奪い去って「取りに來い」、「保管期限を過ぎたら廃棄処分する」という理屈がまかり通るはずがない。

第三建設事務所所管の「保管場所」は都庁の真下とも言える場所にある。だが、荷物を奪われた多くの労働者が、「中野まで行かないと取り戻せない」と思っており、諦めている者も少なく



はない。事実、二月一七日以降、荷物を取り戻せた者は十人にも満たず、未だ強奪された多くの荷物が持ち主に返されないうまま、今日一八日もって「処分」されようとしているのだ。

わたしたちは、勝手な「廃棄処分」を絶対に許さない。と同時に、全ての荷物が持ち主の手にもどるための施策を第三建設事務所が責任をもって行い、強奪した全ての荷物が持ち主の手に戻るまで「保管期限」を延長することを要求するものである。

以下具体的に施策の要求を掲げたので、一つ一つ実践せよ。

一、荷物の「保管期限」を延長すること。その上で新宿でアオカンする全ての労働者にその旨を伝えること。

一、奪った荷物が持ち主の手にもどるよう、職員を新宿駅構内に派遣し、労働者一人一人に強奪行為を謝罪した上で、「奪われた荷物はないか」を聞いて回ること。その上で、荷物を持ち主のいる場所まで持ってきて返すこと。

一、全ての荷物が持ち主の手に戻るよう、あらゆる手段を講じて努力すること。荷物の写真を駅通路に掲示する。トラックに全ての「保管荷物」を乗せて、持ち主がいらないか一人一人に声をかけて回ることなどは、すぐにでもできる実行可能な施策である。

一、新宿福祉事務所による「街頭相談」を通じて、大田寮に入所した労働者のうち、生活保護の適用を受け、二月一七日以降今日まで寮、施設、病院などにいる者は、新宿に戻ってきて荷物を取りもどす機会がない。ただちに新宿福祉に問い合わせをし、入所先を確認し、持ち主の手に戻すこと。

一、大田寮に入所した労働者のうち、手荷物が多く、新宿福祉事務所に預けている者がいる。この荷物についても第三建設事務所「保管」しているはずなので、福祉事務所と連絡を取り、氏名と荷物を照らしあわせ、早急に本人の手に戻るように行うこと。

福祉事務所には、預かった責任を果たし、持ち主の手に戻るよう最大限の努力をするように申し入れること。

一、二月一七日以降に繰り返されている強奪行為Ⅱ「路上廃材撤去作業」で持ち去った荷物について、以上の要求と同様の扱いをすること。

一、全ての強奪した荷物が持ち主の手に戻るまで、絶対に「廃棄処分」にしないこと。

一、以上の点を実行した上で、今後一切の強奪行為に手を染めないこと。

以上の要求が聞き入れられずに、強奪された荷物が「廃棄処分」にされた場合には、今まで以上の社会的な非難を浴びることを肝に命じ、即刻実践するよう要求する。

一九九四年三月一八日

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班

東京都台東区日本堤 一―二五―一―

☎ 3 8 7 2 1 7 1 0 9

日雇全協・山谷争議団

荒川郵便局止め



# 申し入れ書

福祉事務所所長殿

私達、山谷労働者福祉会館・人民パトロール班は、建設、土木業に従事する日雇労働者の街・山谷を拠点に、都下全域のアオカン（野宿）労働者に対するパトロール活動、炊き出し活動、対福祉行動を山谷の労働者とともにたたかってきた団体である。私達は、全国日雇労働組合協議会に所属する山谷争議団、そして、山谷労働者福祉会館に集う諸団体と共に、日雇労働者の「運命」ともいふべき「アブレ（失業）―アオカン（野宿）―野たれ死」に対決する取り組みを担っている。

これまでの活動の中で、わたしたちは、一昨年から約三倍、昨年から一・五倍にも急増した千五百名ものアオカン（野宿）労働者と出会ってきた。実際にアオカン（野宿）せざるを得なくなった労働者の現実と向きあいながら、生きるための方策を共に考え、「解決」していくたかいに着手している。この活動の中で、劣悪な環境の中、低賃金、強労働でこきつかい必要がなくなったら賃金も払わず放り出す、駅、公園の闇手配飯場の存在、そして、福祉事務所にかけこんでも、「住所がない」「まだ働ける」と人の話も聞かずに放り出す行政の存在に多々直面している。不況の中、山谷など寄せ場に仕事がなくなり、駅の闇手配を求めて、転々としながら、行政にも見はなされ路上で、病院で「野たれ死」の運命をむかえる労働者の姿を目前にする時、アオカン（野宿）という苛酷な生活様式をとらざるを得ないその原因は、重層的労務下請構造の中での労働者の使い捨て、労働行政の無策、福祉行政の保護責任の放棄、によるものであるとわたしたちは確信している。

これら、労働者が何故野宿をせざるを得ないのかという視点を欠いた所で、「ホームレス」「浮浪者」という規定（働く意思のない者）のもと実施された「路上生活者等緊急越冬対策事業」と、その目的を如実に示した二月十七日の新宿での事態（「新宿からの叩き出し作戦」）に対し、私達はこの間、強い抗議の意思をもって反対の行動をおこしている。これまで、東京都企画審議室、福祉局、建設局へ「抗議文」を手渡すなどの抗議行動、及び、新宿福祉事務所に対し「抗議文」「要求書」を提出し、生活保護法外の「一時しのぎ」の「保護」ではなく、野宿を余儀なくされた労働者の最低限度の生活を保障すべく、これら「生活困窮者」全てに生活保護法を適用するよう運動を展開している。

今回の「緊急越冬対策」の焦点である新宿では、新宿福祉がアオカン（野宿）労働者に対して行なって来た非人道的な対応（他区へのたらい回し、野宿させながら通院させる、そして今回の、たった二週間だけの「保護」等々）が、私達と新宿でアオカン（野宿）する労働者のたかひによって社会的にもあぶり出されている。福祉事務所が管轄内で野宿する要保護者の要望になんら対応するどころか「切り捨て」て行くことにより、野宿労働者が「社会問題」になる位に増大し、病をもった労働者を放置していた結果として路上で労働者を殺し（新宿では昨年から五十名もの野宿労働者が路上で亡くなっている）、それが東京都にとって看過できない事態となると、他区への分散を狙い東京都の「叩き出し作戦」に積極的に荷担する。福祉事務所としての自らの責任において、保護を必要とするアオカン（野宿）労働者への対応を何ひとつせず、「都区検討会」なるものにゲタを預け、自らへの非難の集中をかわそうとする新宿福祉の態度は福祉事務所の取るべき態度ではない。



が、現在、アオカン（野宿）労働者をめぐる問題は都下全域にわたる問題としてある。二三区の各福祉事務所の管轄内でアオカン（野宿）労働者が存在しない地域はないであろう。そして、今回の「緊急越冬対策」は各福祉事務所のアオカン（野宿）労働者への具体的な対応が迫られる事態へと発展している。貴福祉事務所としての、独自の見解と、独自の対応（体制）が早急にもとめられているということだ。「都区検討会」の施策まちなどという呑気な事を考えていけば、新宿の事態が貴所管轄内でいつ起こらないとも限らないだろう。「都区検討会」の前に、福祉として、その管轄内で努力をせねばならない事はいくらでもあると私達は考えている。それもせずに東京都に泣きついた新宿福祉が世論の非難を浴びているのは当然の事である。

「緊急越冬対策」は終了した。今後福祉対策を重点にした対応に移行するしか具体的な施策はない。が、「都区検討会」なるものは、特人厚組合が設置している施設の調整と、台東なり、新宿なりの「悪い」事例を披露する場ではない。更生施設のキャパシティーは当面変わらなない。ならば、ドヤ（簡易宿泊所）、アパートでの居宅保護を開拓せねばならないだろう。病気がちの労働者もかなり多い。理解のある病院の開拓も複数必要であろう。専門の窓口（住所不定課）のない福祉も多い。シャワー室や着替えのストックもない福祉も多い。設備面での検討も含め、ケースワーカーの意識を向上させるための啓蒙も必要だろう。これらは、東京都にまかせた事ではなく、独自に行なわなければならぬ事である。いずれにせよ、東京都と新宿福祉が新宿からの「叩き出し作戦」を続行したならば、貴所も含めた各区へ、その「ツケ」がまわされるだけである。対岸の火事がいつどこへ飛び火するかも分らない。「叩き出し」と「他区へのたらい回し」で事態が解決するのか？もしそうではないと認識するならば、東京都と新宿区が進めている「叩き出し」に貴所の立場からも抗議すべきであろう。

私達は、下記にあげたこの件に関する貴福祉事務所の認識と、「緊急越冬対策」と、その後の具体的な施策を質問すると同時に、今後、東京都と新宿区が進める、「野宿労働者叩き出し作戦」のための「都区検討会」への出席、協力を止め、貴事務所管轄内で野宿をする労働者の存在を考慮し、独自の見解と体制を早急に確立し、要保護者に対し、正当な法に則った保護の適用を進めていくよう強く申し入れる。

#### 記

- 一、 貴福祉事務所管轄内の野宿労働者の実態をどのように把握しているか？
- 二、 福祉事務所の立場からこの実態をどのように認識しているのか？
- 三、 この一年間の「住所不定者」の相談実数と、実績は？
- 四、 管轄内での行路死亡人の実数は把握しているのか？
- 五、 「住所不定者」への「緊急援護」（物品援護等）を行なっているのか？
- 六、 貴福祉事務所内の「住所不定者」の相談体制と、設備は充実しているのか？
- 七、 「緊急越冬対策事業」の貴福祉事務所での実績は何件あったのか？保護の適用形態はどうだったのか？「大田寮」閉鎖後はどのように保護を継続させたのか？



- 八、「緊急越冬対策」後、貴福祉事務所はどのような対応をしているのか、もしくは、どのような対応を考えているのか？
- 九、ドヤ（簡易宿泊所）、アパートでの居宅保護などの適用を行なっているのか、もしくは行なう計画はあるのか？
- 十、「街頭相談」等を行なう予定があるのか？
- 十一、二月十七日の新宿の「事態」をどのように認識しているのか？
- 十二、二月十七日東京都の叩き出しと同時に、新宿福祉が行なった「街頭相談」はどのような意味をもつと考えているのか？
- 十三、新宿福祉が二週間だけの生活保護法外の「保護」を行なったが、この件に関しては「実施要領」との兼合いではどのように評価しているのか？
- 十四、東京都企画審議室、福祉局が進めている「都区検討会」についてどのようなスタンスで貴福祉事務所はのぞんでいるのか？もしくははのぞもうとしているのか？

以上

一九九四年三月二十九日

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班  
台東区日本堤一―二五―十一  
〇三(三三八七二)七一〇九  
〇三(三三八七六)七〇七三



# 東京都は野宿労働者の締め出しをやめろ!

すべての皆さん。私達は、東京都、新宿区合同によるアオカン（野宿）労働者叩き出しに抗議の声をあげている団体です。

さる二月十七日、東京都と新宿福祉事務所は大がかりなアオカン（野宿）労働者に対する「叩き出し作戦」を行ないました。「人命保護」と名うち、アオカン（野宿）労働者のダンボールや毛布、荷物を奪い、野宿していた場所にフエンスや花壇を設置し、更に「二度と新宿に帰るな」といわんばかりに多くの労働者を「緊急越冬対策」施設の大田寮に収容したのです。

人権意識のかけらもない、この一連の「作戦」の意図は明白です。多くの人の目に触れる都庁へ向かう通路から、アオカン（野宿）労働者を一掃せんがための「作戦」です。労働者が野宿せざるを得ない失業実態のそのリアルな現実から人々の目を背けさせようとする「作戦」です。そこには、野宿せざるを得ない労働者の存在はどこにもありません。彼等はまるで「ゴミ」でも扱うかのような非情な仕打ちを受け、都下に分散させられ、人しれず野たれ死なされようとしているのです。

こんなひどい施策を打つ行政がどの国にあるのでしょうか？

そもそも、彼等が野宿せざるを得ない原因は、東京都や福祉行政に存在するのです。日雇労働者を農村や地方から、国や都の政策によって呼び寄せ、低賃金でこき使った挙句、仕事がなくなれば就労保障や、生活保障をすることなく、使い捨てる。福祉行政も生活保障を適用するどころか、仕事がないのに「仕事を探せ」とつき放す。新宿福祉などは、今まで何人の労働者を殺してきたか、昨年から五十人もの労働者を路上で殺して来てます。病院に入りたいたい労働者に野宿させながら通院させるようなことまで平気で行なうのが新宿福祉の実態です。このように都や福祉行政による日雇労働者の「使い捨て」と「兼民化」の結果が、新宿四百、都下千五百の野宿する労働者の姿なのです。

自らの責任を棚にあげ、問題を野宿する個人の責任にすり変え、力でもって叩き出してしまえなる姿勢は、とうてい許せるものではありません。

新宿のアオカン（野宿）労働者はこの東京都の暴挙に対して、二月二十一日、二十五日、三月四日、十八日と連続した都庁や新宿福祉への押しかけ抗議行動でたたかい抜いています。この中で奪われた荷物を奪い返すと共に「保管期限」を延長させ、また、生活保障を獲得するなど具体的な成果を克ち取って来ています。

すべての皆さん！このアオカン（野宿）労働者のたたかいを支持しましょう！連帯の声は徐々にではありますがあがってきています。自治労働職労民生局支部は「アオカン（野宿）労働者の人権保障を！」と「見解」を発表しました。ある都庁職員の方は「困っている者を放置する者はいつか孤立します」「今後とも頑張ってください」と手紙で連帯の声を届けてくれました。

東京都のアオカン（野宿）労働者への「叩き出し作戦」は、すべての労働者にかけた攻撃です。けっして人事ではありません。人民を愚弄する東京都として、新宿福祉に対する抗議の声をアオカン（野宿）労働者のたたかいに連帯し、叩きつけましょう！

山公民労働者福祉会館・人民パトロール班

東京都台東区日本堤一―二五―十一

☎ 〇三（三八七二）七一〇九

郵便振替口座 東京四一七一五八八三



俺たちは新宿で生きる都民の叩き出しを許さず！

# 新宿福祉は仲間要求に応えろ

新宿の仲間たち！  
二月十七日の東京都による「一斉叩き出し作戦」以降、オレ達は新宿の仲間と共に抗議の声をあげ、連続的なたたかいを、都庁、新宿区福祉事務所に叩きつけてきた。

月曜に配ったビラでも報告したように三月四日には、新宿の仲間、山谷の仲間総勢八十人で新宿区福祉事務所と、都庁におしかけ、二一、二十五日に続く、第三弾のたたかきをやりましたぞ！

二・一七「一斉叩き出し作戦」の中で、新宿福祉はとんでもない役割を担った。一方的にオレ達を叩き出し、荷物や寝場所を奪うだけじゃ、東京都は世論から人権無視だと非難される。そこで必要になったのが福祉で「保護」をするというポーズだ。都は、マスクミなどに、「人命保護のための措置」

奪った荷物をすぐ返せ！  
俺たちの寝場所を返せ！  
撤去作業を返せ！

対都行動  
弾丸3.18  
に向け仲間の力を

「保護作戦」などと、いかにも人権に配慮しているかのような宣伝をさせ、世論や市民をごまかし、この「叩き出し作戦」の本質を隠そうとした訳だ。その要として登場したのが、新宿福祉による「保護」という名目の大田寮への収容だ。

しかし、みんなも知っているようにこの「保護」という名目の実態は、たった二週間だけの収容だ。しかも、生活保護法すら適用しない、法外での措置である。生活保護法が適用されたのは六十五歳以上の仲間だけだ。その他の仲間のほとんどが、大田寮から出され、また、もとのアオカン生活に戻るしかない。

一体、これが福祉のやることか！ 都とグルになってオレ達を叩き出し、荷物を奪い、寝場所を奪い、たった二週、へけ大田寮にブチ込

## 結集マセよう！



山谷労働者福祉会館  
人民パトロール班  
☎3872-7109  
台紙日本橋 1-24-11



み、あは知らんぶり。そして、オレ達が当り前の抗議に行くと、健康を回復してもらおうと、二週間宿道に行ってもらった。「太田寮が閉鎖後はもとに戻ってもらうしかない」「福祉は精一杯のことをやっている」「仕事につけないのは自分で努力していないからだ」と、自分らの責任を棚上げにし、「福祉は努力している、悪いのはアオカンしている方だ」と居直り、オレ達の声すら聞こうとしない。このどこが福祉なんだ！

新宿福祉は23区の福祉の中で最低の福祉と言われているらしい。保護課課長武山の悪名も各福祉事務所内では有名ならしい。そりゃそうだ。どこの福祉事務所にアオカンしながら通院させる所があるものか。どこの福祉事務所に入院したいと相談に来た仲間を「まだ大丈夫」と次々と放り出し、路上で何十人も殺してきた所があるものか。どこの福祉事務所に頭蓋骨陥没の仲間を診断もせず、

### 路上生活者は千人以上も

#### 山谷のバトロール班調査

JR新宿西口の地下道で路上生活者が約1000名いると推定されている。山谷地区は、山谷労働者福祉会館、人民バトロール班は、記者会見で、路上生活者の実態調査結果を発表した。

バトロール班が今月、新宿駅周辺を回ったところ、生活者は4000人以上のぼり、中には生活保護の適用など、生活者の支援策をきかんとすべきた」と訴えている。

大田寮にブチこみ医療にもかけずに放置しておく所があるものか。

新宿福祉は最低限の事すらやろうともしない福祉事務所だ。そしてあげくの果てには、東京都とグルになってオレ達を新宿から叩き出すことに手を貸しているんじゃない福祉だ。オレ達は、三月四日、福祉事務所に対する要求書を叩きつけた。要求内容は最低限のものだ。この要求書にもとずいて、オレ達は、新宿福祉におとしまえをつけさせていこうと考えている。

病気をもっているのに福祉で切られてしまった仲間や、福祉でいやな思いをした仲間など、大勢いると思う。そんな声をオレ達に聞かせてくれ！新宿福祉がどんな所か、仲間の声を、実際にやられてきたことをまとめて公表しようじゃないか。

そして、今、病院にかかりたいと思ってる仲間もかなりいると思う。福祉に一人で行っても、むずかしいと思う。そんな時は、あきらめずに仲間と一緒にいこうじゃないか。福祉に最低限の義務をやらせようじゃないか。泣き寝入りしてたんじゃ、相手の思うつぼだ。オレ達には野たれ死にしか待っていない。生きてやり返す方法を仲間と共に見いだそう。

今、福祉を必要としない仲間も、病をもった仲間を支え、仲間の生命をみんな守り抜いていこう。自分は、福祉の世話になんかなりたくないと思っただけでも、世話にならなきゃ生きていけない場合もあるんだ。これは、人ごとじゃなく仲間全体の問題だ。仲間の力で、新宿福祉に生活保護を取らせよう！最低限のことをやらせよう！

3.4 新宿福祉叩きつけた要求書  
 新宿福祉は2.17の責任を取れ

- 一、二、一七諸「事業」の内、貴所が行なった「街頭相談」事業は、東京都による新宿アオカン（野宿）労働者「一掃作戦」の一環であることを素直に認め、新宿アオカン（野宿）する労働者の所に出向き、謝罪すること。
- 一、東京都に対して、奪った荷物、ダンボールをすぐさま返却し、地下通路を元の状態に復帰することを、諸「事業」を一体となつて行なった責任上申し入れること。
- 一、現在行なっている「法外援助」措置をただちに取り止めること。但し、継続中の労働者に対しては、個別面談をやり直し、正当な生活保護法に則った保護にすぐさま切り変えること。
- 一、大田寮に入寮中の生活保護を適用している労働者に対し、随時ケースワーカーを派遣し、丁寧な面談を行ない、医療保護が必要な労働者に対しては、ただちに入院、通院（大田寮でなく更生施設からの）の措置を行ない、かつ、そうでない者に対しては、退寮後の生活の保障について話し合い、新宿福祉事務所が責任をもつて対応すること。
- 一、年齢での区分けを止め、「生活に困窮している」労働者全てに、生活保護の適用をすること。法に則った施設での保護ないものは居宅保護の適用を行なうこと。
- 一、医療保護を充実させること。入、通院の別は医者の判断にまかせること。協力医療機関を開拓し、緊急入院体制等を整えること。
- 一、上記の件がすみやかに出来ない時は、暫定措置として、無条件の物品援助を行なうこと。食券（朝、昼、晩一日二千八百キロカロリー以上）を保障するもの、風呂券、衣類、毛布ダンボールなど生活必需品の物品援助をすぐさま行なうこと。
- 一、上記反省にたつた新宿区内のアオカン（野宿）労働者の実態調査を行なうこと。



大田家も3月15日で閉められる—新宿で生きぬこう

3月10日 新宿のアオカンの行動と共にとりくんだ  
11日 仲間と共に行動を

10日よる新宿の仲間と共にアオカンの仲間とを回るパトロール  
11日 体の具合のわるい仲間を支えて、新宿福祉にかけあう

おれたちは、3月10日、11日と連続し

て新宿のアオカンの仲間たちと共に、行動をとりくんだ。2月17日の東京都による「一斉撤去—叩き出し」への抗議行動を引きつぎ、夜の人民パトロール、そして翌日の新宿福祉への行動を、労働者自身の手で仲間を支えあつて、やりぬいたぞ！

この行動は、「一斉叩き出し」によってバラバラにされようとしている、仲間どうしのつながりを強め、「一人の仲間のために、多くの仲間が共に行動する」「仲間の命を仲間を守る」という、具体的な目的をもって行われた。

残念なことに、10日の朝には、スバルビルのわきの階段のところで、毛布にくるまっていた仲間が亡くなり、その前にはさらにもう一人の仲間が死んだ。東京都は、こんな仲間の死にも一向にかまうことなく、10日の朝、またも一斉のダンボールの撤去を行なった。

仲間たちは言っている。「何も人が死んだ日に一斉撤去なんか

やることないじゃないか！」

こんな仲間たちの悔しさと無念を胸に、「仲間の命を自分たちの手で守ってこよう」というパトロールが、20人もの労働者の参加で行われたんだ。みんながビラを持ち、「体は大丈夫か？メシは食えてるか」と声をかけあつて、西口地下通路から駅の構内をねり歩き、約一時間のパトロールをやった。こういう一つ一つのとりくみの中から、労働者の団結がつけられていくと思う。これからもひき続きこういうパトロールをやっていこう。

そして、11日の朝には、パトロールで出会った、体の具合の悪い仲間をみんな支えて、新宿福祉まで出むき、当然の医療・福祉を出させる行動にとりくんだ。パトロールで出会ったヘルニアの仲間、そして両足ヒザ間接炎の仲間を支え、20人もの仲間が新宿福祉に乗り込んだ。新宿福祉の職員どもは、「用事のない人

山谷労働者福祉会館  
人民パトロール班  
☎ 3872-7109

次回行動 17日(木)から 新宿人民パトロール  
18日(金)から ~ 「奪った荷物を返せ！」 対都行動 をとりくもう



は帰れ！」と、職員総出でおれたちを叩き出そうとしたが、「あたりまえの医療・福祉を出せ」というおれたちの行動を、止められる道理などあるはずがない。仲間たちは、具合の悪い仲間の行き先が決まるまで、福祉の窓口前に陣どって仲間を支え、ヘルニアの仲間には施設からの通院を獲得することができた。間接炎の仲間は、本人が大丈夫だと言うこともあり、アオカンしながらの通院となってしまうている。多くの仲間が訴えているように、新宿福祉は、「施設がない」という口実で、アオカンしながら病院に通わせることを、あたり前のように行なっている。そもそも、アオカンして病院に通っても、良くなるはずがない。施設がなければ、施設をつくる、それまでは、トヤだつて何だつて方法はいくらでもあるはずだ。アオカンしながら病院に通わせるなんて、新宿くらいのものだ。

ひどい病院に送りこまれた仲間の話も、数多く聞いている。福祉・医療をめぐる、いろんな話を聞かせてほしい。そして、仲間どうしで力を合せて、新宿福祉をかえていくようなどとりくみを、続けてやっていこう！

# 17日(木)大民パトロールをいよいよやるぞ

## よる9時西口地下ロータリーから出発

2月17日の東京都による「一斉叩き出し」から、もう1カ月がたとうとしている。

そして、「叩き出し」と連動して、新宿福祉によって行われた、大田寮への収容政策も「越冬対策」の終了(3月15日)をもって、

完全におわる。「人命保護」を掲げて行われた作戦で、おれたちの生活は何一つ良くはな

っていない。作戦の狙いが、寝場所を奪い、

荷物を奪い、ダンボールを撤去して、新宿からアオカンの仲間を叩き出すことにあつたこ

とは、今からみても明らかだ。

仲間たち！叩き出しを許さずに行動してき

た団結をもつともっと強め、力をあわせて、

新宿で生き抜こう！

おれたちは、17日の夜に、新宿大民パト

ロールを予定している。多くの労働者が参加し

先週やったような『労働者パトロール』とし

てやっけていきたい。ぜひ参加してほしい。

そして、18日には、対都第4弾の行動を、

荷物を奪い返す行動を軸にしながら、やっ

ていくぞ！2月17日に奪われた荷物は、この18

日を過ぎたら「処分」するといっていやがる。

声をかけあつて、行動に参加しよう！



—— 2月25日、対都第2弾行動 ——  
『奪った荷物をかえせ！』と建設局に押しかけた。3月18日第4弾行動を共にやろう！

# 18日対都第4弾行動をとりくもう

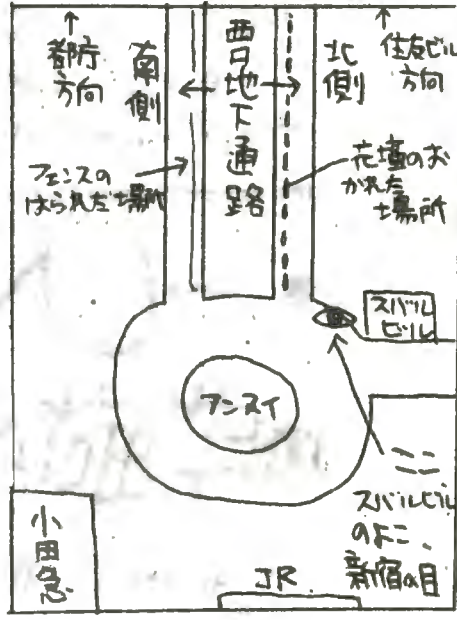
## よる9時30分西口地下ロータリー・新宿の目前に集合



緊急越冬対策「終了弾丸」俺たちは新宿を生き抜くぞ!

# 奪われた荷物をとりもどしに行こうぞ 強盗野郎=都建設局を許さん! 3.18みんな都庁におしかけよう

あす  
明日アサ9時30分スバルビル  
新宿の目  
前に集まってみんな都庁へ



新宿の仲間たち!  
14日大田寮に収容されていた仲間は、全員出された。大田寮は取り壊され、この間東京都と福祉が連動しながら行なっていた「緊急越冬対策」は終了した。

結局、「人命保護」だとかぬかしながら、たった2週間だけ大田寮にプチこみ。その間に荷物を奪い、寝場所を奪い、工事を行ない、俺たちを新宿から追い出す段取りを行なう「対策」でしかなかった。

が、俺たちは、今、新宿で生き抜いている。追い出される所か、より固く団結しながら、たたかいたちあがっている。

東京都と福祉の連中はしくじったんだ。その目論見は完全に吹き飛んだ。

俺たちのたたかいは、連中の嘘八百を社会的にも明らかにしているだけじゃない。具体的な成果も克ち取っている。大田寮に入った65歳以上の仲間(1ヵ月)は、保護を打ち切られることもなく、一時保護所へ移ったり、ドヤやアパートからの居宅保護を克ち取ったぞ!新宿の仲間は41人もだ。

「対策」が終わったから何もやりませんなんていうのは、絶対に許さん!  
俺たちはドンドン声をあげ、たちあがり、もっと、もっと具体的な成果を、俺たちの権利として、ら取る

明日、18日は、2月17日の「一斉撤去」の時、奪われた荷物の「保管」期限だ。俺たちはこの間、仲間と一緒に荷物を奪い返す行動をやってきた。17日に荷物を奪われた仲間!そして、それ以降の「一斉」で荷物を奪われた仲間!奪われっぱなしじゃ腹の虫がおさまらない。みんなで文句を言い、みんなで荷物を奪いかえす行動にたちあがろう!保管場所は都庁の目の前だ。諦めたら負けだ。勝手に俺たちのダンボールや毛布を奪う、強盗まがいのことを何度も繰り返して、拳銃の果てには俺たちの寝場所にフェンスを張った、東京都、建設局、第三建設事務所に抗議の声を叩きつけようじゃないか。

仲間たち!俺たちは、明日3月18日、2・17のおとしまえをつけさせる対都行動第4弾を取り組む。多くの仲間呼びかけ、ともにたちあがろう!朝、9時半、西口北側地下道にある、スバルビル「新宿の目」の前に集り、都庁に押しかけよう!

山谷労働者福祉会館

人民パトロール班

☎三八七二一七二〇九

18日におしかける時、手荷物のある仲間は、車を用意してあるので、責任をもってあずかります。



東京都による新宿駅西口地下・野宿労働者の締め出しを許さない！

# 都・区はカギを仕事と生活、医療と福祉を

## 保障しろ！

● すべてが終わる！ 私たちは、いままで山谷、上野を中心に、都内で野宿を全儀なくされた人々のもとをおとすれ、野宿の仲間たち！ 黙って野たれ死ぬな！とを合言葉に、炊き出し、医療相談などの活動をおこなってきた「山谷労働者福祉会館・人民11トロール班」です。私たちはこれまでに人民11トロールのほかで、山谷で上野で、そしてここ新宿で、野宿を強いられてくる人々のほとんどもが、日雇いで土木・建設業の仕事に付いている、きびきもが労働者であることを何度となく実感させられてきました。

● さる2月17日、東京都は、新宿駅西口地下道にフェンス、鉢植えを設置する「環境整備工事」に名をかりて、白昼堂々、そんな野宿労働者の「ダンボールハウス」を、200軒あつたハウスをいっせいに撤去していききました。

確かに都は、「緊急越冬対策事業」の一環として、この日、新宿区福祉事務所とも連携し、野宿労働者への「街頭相談」をおこなって、18人を大田区城南島近くのフレハス施設「大田寮」へ収容し、4人を都内の病院へ入院させた。新宿福祉によれば、大田寮にうつれるのは「15歳以上が1カ月間、15歳以下が、当初1週間の予定だったが延長して2週間」とのことでした。が1カ月たったう、2週間が過ぎたら、いったいどうしろというのでしょうか。いき場のない労働者は、また新宿で、新宿がダメならほかのどこかで、けっきょく野宿せざるをえないのではないでしょうか（事実、2週間後の3月3日深夜、私たちが知るかぎりでも、新宿駅周辺では4人も労働者が野宿を全儀なくされていきました）。

● 街頭相談のやりかたもズガンそのものでした。「リースワーカーが、1人の野宿労働者からの相談に11分した時間はずかしく2分！ 2分が最近の生活状態が、健康状態がわかるとでもいうのでしようか、そもそもこの日、大田寮へ収容されたのが何人だったのに対し、病院への入院者が4人と極端に少なかったのはなぜなのでしょう。他区のある福祉事務所の職員はこう話しています。「先日、新宿で街頭相談を受けた人が入院できず、大田寮へお入れされて、イヤになつて退寮してきた人の面倒をうつてくれた」「さすがに入院させた、何せ頭骨が陥没していたので」（！）この職員は続けて「新宿福祉のヒドさけいままら区にも有名」「福祉事務所が生活保護法の枠外で、法外保護」で、18人もの相談者を、健康状態がどうあるかが大田寮へ入寮させたのだから」ともいっていました。この区は福祉事務所も、実は、そのことをいえたりはしないのです。これこそが新宿福祉のやりかただったといえるでしょうか。

● 今回、「緊急越冬対策」としておこなわれた、都・新宿福祉による野宿労働者の締め出しと一時しのぎの施設への収容。この「対策」もきつう3月15日をもちって終了します。新宿はもちろんだ、山谷、上野など都内各地で野宿を強いられた約150人の労働者をほったらかしにして――

都・区は野宿労働者――日雇労働者――に仕事と生活、医療と福祉を保障しろ！

（24年3月15日）

★山谷労働者福祉会館★  
**人民11トロール班**

東京都台東区日塚1-25-11 (TEL) 03(3872)7109







俺たちは仲間と力をあわせて新宿で生を抜く！！

# 3.24~25の労働者パトロール行動も仲間共々！

## 強盗野郎東京都建設局に押しかけ荷物を取り戻したゾ

新宿の仲間たち！  
おれ達は、先週も、仲間とともに、木曜日の労働者パトロールと、金曜日の行動をやりきったぞ！

先週の火曜日に「一斉撤去」がやられた。スバルビルや、横断地下道を中心に、ダンボールの撤去だけじゃなく、荷物の強奪を東京都建設局は性懲りもなくまたやってきた。

おれ達は東京都が「撤去」作業をやめるまで、何度でも建設局に押しかけてやる。

二十五日は、四十名ちかい仲間と共に、建設局にのりこんだ。が、またもや奴らはフロアーの扉にかんぬきをかけ、職員総出でピケをはり、おれ達の正当な抗議の声をきこうともしない態度に出た。扉ごしのおれらの要求に奴らが叫ぶ「業務の妨害になるから扉を閉めました」「話しあいがあるなら代表を選んで下さい」「フザケルナー」「職員は業務なんかしちやいない。ただつつ立って扉を押えている

だけだ」「おれ達みんながお前らに荷物を奪われた代表者だ。みんなを入れるのが筋じゃないか」「ポリを中に入れて、おれ達を入れないのはどういうことだ」

おれ達の抗議の前に、奴らはなにも答えられない。ただオウムのように同じ言葉を繰り返すだけだ。おれ達はこの強盗野郎東京都建設局に弾劾の声をみんなで叩きつけたぞ！奴らはおれ達のたたかいを恐れている。黙っていたら荷物の強奪が何回でも繰り返される。それをさせないために何度でも建設局に押しかけよう！

そして、その日の夕方、第三建設事務所所の保管場所に仲間と共に行き、ほとんどの荷物を奪い取ったぞ！奴らは、おれ達の大事な毛布を二十枚以上も奪って行った。が、おれ達は諦めやしない。奪われた荷物をドンドン奪い返して、新宿で生き抜くぞ！奴らの「撤去」はおれ達の

山谷労働者福祉会館  
人民パトロール班  
☎ 3872-7109

次回行動

3.31 (木)	お9時	労働者パトロール	西口-9-1 結集！
4.1 (金)	お9時30分	対福祉行動	「新宿の目」結集
4.1 (金)	お6時	めしを食い好む	西口生命ビル「電話広場」結集





「たまてたら」たたかひの炎に油をさしているだけなのだとおれを思い知らせよう！

三月で新宿からいられなくなるなんていう噂が、飛びかっているみたいだ。どうもこれはウサン臭い。よくよく情報源をたどってみると、あのインチキ野郎「下村」が言いふらしているようだ。しかもこの「下村」は「山谷の人間」とつきあうな。つきあうとひどい目にあう「なんて」ことも言ってるらしい。おれ達のたたかひをなんとか潰そうと分断をはかっているんだ。三月一杯でいられなくなるなんてことは無い。だからといって自発的に出ていく必要も無い。おれ達は、新宿で頑張る。おれ達の生活をなんの保障もしない、東京都や新宿福祉に必ずやり返そう！

福祉から何度も断られ、体をこわしている仲間も多いと思う。新宿福祉なんてまったくひどい所だ。昨年からはすでに五十人もの仲間

が路上で亡くなっている。中には、福祉事務所の中で息をひきとった仲間もいるという。仲間をこんな風に殺しておいて、なにが福祉だ！出張相談を綿密にやればこんな事態にはならなかった筈だ。自分らの責任が追及されると東京都に泣きつき、おれ達をグルになって叩き出し、「一時しのぎ」の大田寮にぶち込み、新宿に戻れないようにする。まったくふざけた福祉だ！が、おれ達は、こんなひどい福祉だからこそおれ達のたたかひで変えていかなければならないと思っている。新宿福祉はおれ達の面倒をみる義務があるんだ。一人でいけばまた断られるかも知れない。そういう時は仲間と共にいこう！おれ達の目の前でなんの根拠もなく断られた時は、みんなで抗議しよう！そうやって一つ一つ福祉のやり方を変えていこう！今週の金曜日におれ達はそう思ったたたかひをしたいと思っている。体がアオカンビヤもうきつい。調子が悪くて病院にかかりたいと思っている仲間がまわりにいた。是非、木曜日の夜におれ達がパトロールにまわった時に声をかけてくれ。そして、金曜日の日におれ達と一緒に福祉に行こう！



そして、おれ達は二月の十七日以降、東京都と福祉に対するたたかひを連続的にやってきた。このたたかひをふり返って、そして今後どういったたたかひをやるのか。金曜日の夜、飯を食いながら話しあいたいと思っている。「いのけん」の仲間とも今回は一緒にやるぞ！時間は夜六時、場所はいつも「いのけん」がやっている西口地下の安田生命ビル「電話の広場」の所だ。この間のたたかひに参加してきてる仲間是非参加してくれ！

▲「保管場所」の荷物  
東京都建設局は「育」もやる！「工事」もやる！



新宿福祉がひどすぎるから、今年50人もの仲間が死んだ  
 体のきつい仲間をささえて、  
 新宿福祉で生活保護をとり  
 明日(4/1) 19:30 スバルビル「新宿の目」に集まろう

二の「一ヵ月半のたたかいをふりがえて  
 メシを食いながら話をしよう  
 よる6時西口地下安田生命ビル前「電話の広場」へ

新宿の仲間たち！

あす四月一日は、朝から対新宿福祉行動を取り組み、夕方六時からは西口地下・安田生命ビル前の「電話の広場」で、この一ヵ月半のたたかいをふりかえり、メシを食いながら話をする企画をたてているぞ！ぜひ参加してほしい。

★ ★



おれたちは、二月二五日に新宿福祉に対して「要求書」を叩きつけ、この間の新宿福祉のありかたを改めさせ、おれたちの生活を保障しろと要求をしてきた。

新宿福祉のひどさは、二三区の中でも目にあまるものがある。

新宿では、この一年間で五〇人もの仲間が路上で野垂れ死を強いられている。新宿福祉の窓口までたどり着いたものの、事務所の中で息を引きとった仲間もいる。福祉がひどいということは、多くの仲間が野垂れ死の危機にさらされ、実際に殺されていくということなんだ。おれたちが新宿で生き抜いていくためには、

新宿福祉を変えていかなければならないんだ。

何で五〇人もの仲間が駅で野垂れ死を強いられたのだろうか。

病を抱えた具合の悪い仲間、長いことメシも食えないで体力もなくなってしまう仲間、ケガが悪化して化膿してしまった仲間、そんな仲間の多くが新宿福祉の窓口まで相談に行っているだろう。あるいは、年四回駅でやっている「街頭相談」で、相談をした仲間もいるだろう。

新宿福祉は、よっぽど具合の悪い仲間は入院をさせるものの、ほとんどが「アオカンしながら病院に通わせる」ようなことをやっている。こんなことをやっているのは、新宿くらいのもんだ。他の区の福祉事務所では、ドヤや宿泊所を提供し、そこから病院に通うようなシステムをつくっているんだ。

山谷労働者福祉会館  
 人民パトロール班  
 ☎3872-7109





新宿福祉は、一宿泊所もドヤも一杯で泊まれる場所がない。なんて言い訳をされているけれど、そんなのは嘘っぱちだ。新宿には大久保にドヤがあるし、アパートだってある。他の区の下ヤを使うことだって可能なんだ。

アオカンして、メシも食えずに薬を飲んだって、体が良くなるはずがないじゃないか。

新宿福祉がちやんと生活保護を出していたら、五〇人もの仲間が死ぬことはなかった。

二月一七日以降、「人命保護」だとぬかして、

二五〇人もの新宿の仲間を大田寮に収容した新宿福祉は、六五才以上の仲間一人には生活保護を出したものの、六五才以下の仲間には、体の状態がどうであれ、一律に二週間の

宿泊でゴマかし、その後の生活の保障すら考

えてもいない。頭蓋骨が陥没した重傷の仲間

にさえ、大田寮の宿泊でゴマカそうとしたり、

おれたちと一緒に新宿福祉に行つて生活保護

を勝ちとつた仲間には、「山谷の連中とつきあ

うな、保護を打ちきるぞ！」と脅しをかけた

りと、福祉と名乗るにはひどすぎる事を繰り

返している。

福祉事務所に、「生活保護を出せ！」と要

求するのは、あたり前の権利なんだ。いなか

に家族がいるとか、近くに兄弟がいるからと

いって、ことわられる理由にはならない。保

護を受けた後で、家族にお金を請求されることも絶対はない。

これまでことわられ続けてきた仲間も、あ

きらめずに何度も福祉に行つて、生活保護を

要求しよう！明日は、保護を要求する仲間を

支えて、皆で新宿福祉に行こう！

おれたちは何度でも都庁に押しかけ、新宿

福祉にも要求書を叩きつけてきた。都は、新宿

から仲間たちを一掃しようと言論んできたもの、どっこい今も、四〇〇人以上の仲間が力を

あわせて生活し続けている。

東京都はアオカンの仲間の一掃が出来なかつ

ただけじゃなく、逆に仲間どうしのつながりを

強め、団結力を作る結果を生み出してしまった

のだ。今再び、下手な「一斉叩き出し」をかけ

れば、火に油を注ぐだけにしかなら、い、都は

おれたちは

生きぬくぞ

新宿で



3/18 都庁・福祉局へおひかけ、課長に抗議をした



そんな思いでピリピリしている。東京都と区は「都区検討会」という、次の叩き出しの作戦会議を4月中にも開こうとしている。都内のアオカンの仲間への実態調査というものをやろうという動きもある。二度と叩き出しをさせないために、この一ヵ月半のたたかいをふり返つて、メシを食いながら話をしよう。明日(四月一日)よる六時に、西口地下・安田生命ビル前の「電話の広場」に集まろう！

うとパテンのいんちき野郎=下村を新宿から叩き出そう



先週は、3人の生活保護—入院をかちとったぞ

皆様の力で、病氣・高令の仲間を支え  
新宿福祉で生活保護をかちとろう

あす4/8(金)も新宿福祉へ行くぞ / あさ9:30 スバルビル 新宿の目

# 4月1日労働者集会に二五〇人が参加 太く長く新宿で生きぬこう

新宿の仲間たち！先週の金曜日（四月一日）

は、病氣やケガ、あるいは年とって体のきつい仲間を皆なで支え、新宿福祉に乗り込んで生活保護を要求、三人の仲間の入院を勝ちとったぞ！

一人で福祉に行つて相談すれば、ていよく門前払いを食らわせられ、結局アオカンでしのごしかない、そんな経験は皆なもしたことがあるだろう。そんな時、仲間が仲間を支え、福祉ににらみをきかせて「ちゃんと生活保護を出せ」と要求すれば、門前払いなんかできっこしない。先週はそんな取りくみとして皆なで行動したんだ。

生活保護を要求した仲間はこんな状態だった。一人は指のケガがひどく、中指を切断しなくちゃいけないほどの重傷なのに、アオカンしながら毎日病院に通院させられていた。一人は、ドヤで居宅保護（ドヤ代と生活費を福祉に出させ、生活すること）を、途中で入院したからと打ち切られた仲間。そして

一人は大田寮に生活保護で入っていて、三月一五日以降、仕事をしてみようかと保護をいったん辞退したら、再び生活保護は出せないと言われた仲間。さらに七一歳の高令の仲間も生活保護を求めて合流した。

皆なで力を合せて福祉に向くと、相談員の態度もかなり温和で、丁寧な対応をしていくようだ。事情を訴え、入院したいと要求するとすぐに、病院に行つて診察を受けるように言われ、同時に「生活保護申請書」というものに名前や本籍を書くように言われた。これを提出すれば、福祉事務所は保護決定か否かを決めなくてはならない。決定に不服があるときは、不服審査というものを請求することもできるんだ。たいていの福祉事務所では、この「申請書」というものを提出させずに、門前払いをくらわすことが多い。あとで厄介な問題が起きないように、水際で追い払おうという訳だ。皆なで一緒に行けばまともな対応をするけれど、一人で行ったら追い払われ

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班

☎3872-7109 / 3876-7073



東京都による野宿労働者の叩き出し

を許さない!

# 4.10 集会

日時：4月10日午後1時～(4時終了予定)

会場：新宿エルタワー・グリーンホール(12F)

新宿駅西口徒歩5分

発言：「新宿・野宿労働者の叩き出しの

本質とはなにか」(山谷労働者

福祉会館・人民パトロール班)

その他、新宿でのたたかいて

記録したビデオ上映あり

会場カンパ 500円

野宿労働者 無料

る、こんなことをやらせておくわけにはいかない。今まで福祉にこんなひどい対応をやられた、保護を打ち切られた、窓口で追い払われた、そんな話を聞かせてほしい。そして、一人でダメなら皆なで押しかけて、ドンドン生活保護を獲得して欲しい。じゃないか！おきらぬたら奴らの思ッポだ。病やケガを抱えアオカンがしんどい仲間に福祉に行くことを呼びかけてドシドシ窓口に行こう！

明日、四月八日は再び皆なで福祉窓口に出向き、仲間の生活保護を獲得する行動を取りくむぞ。病氣、ケガ、年とった仲間を支えて朝九時半スバルビル・新宿の目に集まろう！

こんなひどいやつはいない  
自称アオカン対策委員会  
下村の話はせむしんぶうさぎ

アオカン対策委員会を名乗る、うさん臭い野郎。下村が、新宿をうるちよろしている。こいつは、福祉や都にパイプがあるとか言い回って、仲間にもうそをまきちらしている。

「四月になったら、新宿ではアオカンが出来なくなる」と吹いていたのもこいつだし、テレビカメラを同

東京都の叩き出しを許さず——  
四五〇人の仲間が新宿で生きている

四月一日、夕方の六時なら、西口地下安田生命ビルの前で、一五〇人の新宿の仲間が集り、労働者のつどいをもった。通りすがりの市民・学生からも、「東京都は何てひどいことをするんだ！」と、おれたちの闘いに共感する声の数多く聞かれ、資金カンパを置いていく人もいた。

ビデオ上映の後、山谷労働者福祉

行しては、善人ぶっているが、実際こいつは行政とのつながりは一切持っていない。新宿福祉は「何者だか分からない、迷惑している」と言っている。どうもこいつの言うことは、全部うそで、何の根拠もないんだ。おれたちが山谷から新宿に足を運んで、ることについても、「山谷の

会館・人民パトロール班と「いのけん」からも話がされ、「叩き出しを目論んだ都の政策は失敗した。現に今、四五〇人以上の仲間が新宿でアオカンしながら頑張っている。こうして闘ってこれたのは、新宿の仲間が団結が強められたからであり、団結こそ力、もつともつと仲間とのつながりを強めて、都の叩き出しに反撃しよう。二度と同じようなまねをさせないぞ！」と、皆なでこの一カ

人たちと付き合うな、奴らは暴動を飛ばし、おれたちにも「新宿から出ていけ」などと罵声を浴びせている。インチキ野郎—下村に気をつけろ！奴を新宿から叩き出そう！

インチキ野郎=下村  
こいつに気をつけろ



月半の闘いを振り返った。都はおれたちの闘いに挑戦するかのごとく、四日にはまた「一斉」をしかけてきやがった。奪われた荷物はずぐさま取り戻そう！そして、次の叩き出し計画の作戦会議、「都反検討会」の動きを潰してやろう！

「実態調査」とか言って、夜中に写真を撮って回っているという話もある。ぜひ情報を寄せてほしい。



「都区検討会」(再度の叩きだし)を準備する  
 福祉事務所長会に俺たちの声を叩きつけよう

4.20 九段 行政会館 (4月20日(水) 午前11時 新宿目黒)

仲間を支援、新宿福祉でまっとうな  
 福祉をかち取ろう  
 明日も福祉へ行くぞ  
 4月15日(金) 午前9時 新宿目黒 集合

新宿の仲間たち！

先週(八日)、おれ達は、またもや新宿福祉に、病をかかえた仲間を支援あい仲間と一緒に大挙おしかけたぞ！前日の労働者パトロールで出会った二名の病気の仲間と、当日の行動に合流した二名の仲間が、保護を申請して、二名の入院、一名の施設入所、一名の診療をかちとった。

一人でこの間、福祉に通って、そのたびに「おまえはアル中だ」と断わられていた仲間も入院が出来た。仲間とみんなで行くことによって、新宿福祉は、今までみたいなひどいことは出来なくなる。病を抱えた仲間を支援あい、これからもどんどん新宿福祉に押しかけよう。やつらは、問題にならないようにとおれ達が押しかけるとそれなりの対応をしてくるようになった。が、入院したとしても、

その後が問題だ。病気が直らないうちに出されるとか、出されたあとも福祉が面倒を見ないとか、新宿福祉のやることだ、ろくなことを考えていないだろう。入院した仲間と結びついて退院後も面倒を見させよう。それと、やつらは、ドヤでの保護をなかなかやろうとしない。通院ですむのをわざわざ病院にいたりとか、ドヤの確保が出来ないのを口実におかしなことを行っている。区内にドヤが少なければ、区外のドヤを使えばいいんだ。実際「越冬対策」の後、やつらは、台東区のドヤを使ったこともある。通院と医者判断がでた仲間は、どんどんドヤでの保護を要求しよう！明日も、再度福祉行動を取り組むぞ！スバルビルまえ九時半に集り、病を抱えた仲間を支援、福祉をかちとろう！

その後が問題だ。病気が直らないうちに出されるとか、出されたあとも福祉が面倒を見ないとか、新宿福祉のやることだ、ろくなことを考えていないだろう。入院した仲間と結びついて退院後も面倒を見させよう。それと、やつらは、ドヤでの保護をなかなかやろうとしない。通院ですむのをわざわざ病院にいたりとか、ドヤの確保が出来ないのを口実におかしなことを行っている。区内にドヤが少なければ、区外のドヤを使えばいいんだ。実際「越冬対策」の後、やつらは、台東区のドヤを使ったこともある。通院と医者判断がでた仲間は、どんどんドヤでの保護を要求しよう！明日も、再度福祉行動を取り組むぞ！スバルビルまえ九時半に集り、病を抱えた仲間を支援、福祉をかちとろう！

へっつへっ





4・1労働者集会には150名もの仲間が参加してくれた。

月曜日のピラでも仲間につたえたように、来週の水曜日20日、福祉事務所長会議が、九段にある東京区政会館で行なわれる。これは、新宿だけじゃなく都内各地でアオカンしている仲間を再度叩き出し、收容する攻撃を準備する「路上生活者問題に関する都区検討会」の再開にむけ、二十三区の福祉事務所長が集り討議する場だ。おれ達は、この間、二十三区の福祉事務所に向き、「新宿の事態を再度繰り返すな！東京都の野宿労働者一掃作戦に荷担するな！「都区検討会」に参加するな！おれ達を切りすてるのではなく、生活保護をきちんと適用しろ！」と要求し、その上で、叩き出しに荷担するなど、とうてい福祉とは



4・10集会は新宿の仲間、山谷の仲間、市民らが総結集して成功したぞ！

思えないやり方をとった新宿区に対して、所長会の中で福祉の立場から抗議しよう申し入れた。やつらが、おれ達の申し入れにどういう態度を取るのか？ 実際現場に向き見てやろうじゃないか。そして、おれ達の生の声をやつらに叩きつけよう！ 今度の所長会は「都区検討会」を準備する場ではなく、新宿や台東、荒川などおれ達を切り捨ててきた福祉を弾劾する場だ。九段の区政会館前に集ま

り、表からやつらに圧力をかけてやろうじゃないか。おれ達は、新たな2・17を準備する「都区検討会」の再開を絶対にはゆるさない。また、叩きだすためにおれ達を「調査」するなどという、企画審議室調査部が行なおうとしている「実態調査」をゆるさない。「都区検討会」粉碎！「実態調査」阻止のたたかいにたちあがろう。

下村 出そう！

野郎 追いかけて新宿からイを

ふダイト子

三いつは、殺人や

俺らを食べ物

にしてる

とバカな

女だ。



# 2.17「斉叩き出し」への怒りを忘れないぞ！ 次なる叩き出しの作戦会議＝都区検討 を準備する4/20「福祉事務所長会」に おれたちの声をたたきつけよう

## 明日のあさひに 新宿の目玉に集まろう！ 九段・区政会館へ行こう

新宿の仲間たち！

明日（四月二〇日）、東京二三区の福祉事務所の所長が集まる「福祉事務所長会議」が九段・区政会館で行われる。

この会議は、二・一七新宿での「一斉叩き出し」と一体の「緊急越冬対策」（大田寮への収容）がどうだったのか、具体的に検討する会議となる。もしこの会議で、二三区の福祉事務所長が、新宿福祉のやったことに賛成し、批判の声すら上げなければ、第二、第三の新たな「叩き出し」が打ち下ろされることになってしまおうだろう。さらにそうなれば、都区で進めている「路上生活者問題に関する都区検討会」（詳しくは裏面を見て）の再開にむけた、準備会議になってしまおうのだ。こんなことは絶対に許せない。

この間、おれたち山谷・人パト班は、二三区の福祉事務所を回り、「新宿福祉のようなことをするな！都の叩き出しに同調し、荷担するな！『都区検討会』に参加・協力・参

するな！」「おれたち新宿労働者に生活保護をちゃんと出せ」と声を叩きつけてきた。そして、「福祉事務所長会議で新宿福祉のやったことを批判しろ！」とつきつけてきた。

ある福祉事務所の課長は、「新宿でやったのは、保護じゃない、排除と収容だ！」と真向から批判する立場を明らかにしている。

ただ、福祉事務所長会議の場で、新宿以外の福祉の連中が、「新宿はひどい」と声を上げるかどうかは疑問だ。会議になると本音もいえなくなる、そういうやつらが多いから。だからこそ、直接被害をこうむったおれたち自身が、区政会館前に集まり、「新宿福祉よフザケルナ！おれたちはこんなに怒っているんだ」「新宿福祉はこんなにひどいんだ」と声を上げることが必要になってくる。

「都区検討会」を準備する会議を、新宿福祉はじめ、台東・荒川などめっちゃくちゃな福祉を弾劾する場にかえてやろう！



新たな「叩き出し」の作戦会議Ⅱ「都区検討会」の動きと連動して、おれたちを「実態調査」しようという動きがある。

これは、「都市生活に関する調査」都市の健全性を損なう不安定要因に関する調査」と題して、「ホームレス、不法滞在外国人、麻薬犯罪」を調査対象に、都・企画審議室調査部が行おうとしているものだ。

やつらが、調査をした上で何を目論んでいるかは、最初からわかっている。「外国人は国外に追放し、犯罪は取りしまり、ホームレスは徹底的に叩き出す」——これがやつらの狙いだ。「大都市のひずみ」などとたいそうな事をぬかしているが、なぜおれたちが新宿



福祉事務所会長の行われる  
九段・区政会館の計画する  
あらたな叩き出しをさせるな!  
あな-ひるいじ-新宿の目-九段へ!

でアオカンしなくてはならないのか、なぜ外国人がはるばる日本に来て働かなくてはならないのか、その原因が国の政策にあることを考えようともしない。

おれたちは、新宿で仲間と力を合せてアオカンしながら生き抜くことで、国の労働行政、福祉行政の無策ぶりを根本から批判しているのだ。なにも恐れることはない。悪いのはお

## 「新たな叩き出しの作戦会議」 都区検討会とは?

二月一七日の「一斉叩き出し」は、東京都と新宿区が合同して進めたことは知っていると思う。だが、「叩き出し」を執行するまでには、都と二三区の綿密な打合わせⅡ作戦会議が行われていたのだ。

昨年の一二月二〇日にも、福祉事務所長会議が行われ、「叩き出し作戦」の大枠が検討され、これを都の企画審議室が具体的に作戦計画として練り上げ、実行に移したことが分かっている。

今、新たな「叩き出し」を、画する会議Ⅱ

れたちをさんざんこき使ったあげく、路上に放り出す資本家・オヤジ共、そしてそういうやり方を放置して、対策も取ろうとしない労働行政、積極的に福祉対策をするわけでもない行政のやつらなんだ。「ここに寝るな」などとやつらが言う筋あいのものじゃない。「実態調査」なんて絶対阻止だ!おれたちは新宿で太く長く生き抜くぞ!

「都区検討会」が、都(企画や福祉の連中ら)と、区の福祉事務所の連中であつたられ、二月一八日には第一回目の会議がもたれている。

奴らは「検討会設置」の理由としてこう言っている……「近年、繁華街を中心に道路や公園に野宿する路上生活者が全的に増加しており、道路や地域の環境、衛生など様々な面で問題を投げかけている」と……

フザケルす!おれたちの命の問題ではなくて、「環境が悪い、きたない」などと問題にして、この問題の解決に向けて検討するといふのだ。たくらみは、おれたちを駅・公園・路上から叩き出すことだけだ!「都区検討会」は次なる叩き出しの作戦会議でしかない。



あらたに「2.17」を準備する

# 都区検討会をゆるぎなく



●新宿の仲間たち！ 周知のとおり、さる2月17日、東京都、新宿福祉が、ルになり、「環境整備工事」に名をかりて、西口地下で「オカンをし」られ、この仲間が「たたきだし作戦」がとうとう実行にうつされた。また新宿福祉は、この日同時に仲間への「街頭相談」をおこなって、18人を「大田実」へ収容したものの、うち1人をたまたま週明けにたまたま路上へとほうりたした。

「都、新宿福祉によるたたきだしと一時しのぎの施設への収容を、せつたいにゆるぎなくし、以来、おれたちはそんなおもしろいでたばかりにたちあがった。そして、たたきだしのほかでうげられた荷物をとりかえすために、またまとうほ生活保護をかちとるために、建設局をはじめ都のさまざまな部局や、新宿福祉に何度もおしかけ、やさやかならも具体的な成果をあげてきた。さらにさきの10日には、これまでのたたかひの集約として、「支援」の仲間とともに集会を開催し、約100人の結集で成功裡におえることかできた。

●がおれたちにも、まだやりのこしてあるたたかひがある。たとえば今年発足した「路上生活者問題に閉する都区検討会」に、「登ギヤ」フンと11わせてやるたたかひがとれた。

この「都区検討会」、要は、工スレ地獄がより深刻なものとなるなか、いやや都内全域で1500人をおかえするまでにふくれあがった「オカンの仲間を、地獄からいかにたまたまだし、どう施設へと隔離・収容するのかを、都、区、中」となつてかんがえる場だ。そのために、11都区検討会では、都内ですオカンを全儀なくされていく仲間の「実態調査」をやろうとたくらんでいるらしい。そもそも、連中は当初、「緊急越冬対策」がおわると3月15日以降も「あきつづき保護が必要者のおつかひにについては都区で協議する」として、たにもかかわらず、2月18日の第一回会議以来、11までに2回めの会議すらひらいていない無責任なやつだ。がおれたちがかつかんた情報にふると、次の会議は、今月20日におこなわれる「23区福祉事務所所長会議」以降、じきにひらかれるようだ。

●仲間たち！ あらたに「2.17」を準備する都区検討会の開催をゆるぎなくたたかひを、今後多くの仲間とともにつくりあげていこう！ (94.4.11)

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班 (TMS) 03(4)6252100



# 新たな2・17を準備する「都区検討会」再開阻止！

## 福祉事務所長会は野宿労働者叩き出しの責任を取れ！

すべての皆さん！本日、東京区政会館にて特別区（二十三区）の福祉事務所長会議が開催されます。

去る、二月十四日から三月十五日まで、東京都と特別区福祉事務所は、合同で「路上生活者等緊急越冬対策事業」を、行ないました。「人命保護」をうたい、当事者の意見抜きで行なわれた、この「事業」の実態は、二月十七日の新宿の事態に現われているように、「叩きだしと隔離収容」のための「事業」でした。野宿を強いられている労働者の「人命保護」、「生活保護法での収容」とは、まったく言葉だけで、「収容」された、三百一名中、実に二百五十名が、生活保護法外でのたった二週間の「収容」でしかなく、収容施設から出された後も、なんの保障もされずにアオカン（野宿）を強いられたままです。叩き出したあと、彼等の寝場所を奪い、一時的に収容し、あとは「勝手にどこかへ行って野たれ死んでくれ」というのが、この、東京都と特別区福祉事務所が行なった「緊急越冬対策」の本質です。

これが、福祉の名のもとに行なう事業でしょうか？

野宿労働者に対して、福祉事務所は、これまで一体どのような対応をしてきたのか？とりわけ、新宿福祉、台東福祉、荒川福祉は、その最たるものです。病気がちな労働者を窓口で平気で追い返し、「まだ働ける」「もう二度と来るな」「よその福祉に行け」と、切り捨て、新宿においては、昨年から五十名もの労働者を路上で殺して来たのです。なかには、新宿福祉にかけこんだ労働者を福祉事務所の中で殺すなど、前代未聞の事態まで引きおこしています。また、台東福祉も病院から病報をもって来た労働者を門前払いし、その労働者に「人質事件」を引き起こさせることまでしているのです。

働けなくなった日雇い労働者を使い捨て、野たれ死にへと追い込んでいく「棄民化」政策のもと、野宿労働者は、福祉にもてあそばれ、福祉に殺されてきたのです。

この「棄民化」政策を都内、全国におし広げようとする、「都区検討会」の再開を私たちは絶対に許せません。本日の福祉事務所長会議において、「都区検討会」の再開が決定されようとしています。新宿での事態を反省せぬまま、再開される「都区検討会」は、新たな2・17を準備するものでしかありません。各福祉事務所は、東京都の叩き出しに荷担するのではなく、また、法外援護での一時しのぎの援護を乱発するのではなく、野宿労働者に当たり前の福祉を出すのが当然です。「都区検討会」への参加、協力を即刻やめるべきです。

私たち、野宿労働者を先頭にした抗議の取りくみに、心ある支援をお願いします。

山谷労働者福祉会館

・ 人民パトロール班

☎ 387217109 / 387617073



# 4.20 福祉事務所長会を

# 山谷・新宿 150名の力でぶっつぶした!

## この力で「都区検討会」再会を阻止しよう

明日(4/22) 新宿福祉行動を今週もやるゾ!!

あたり前の福祉を壊せよう

あさ 9:30 スバルビル 新宿の目 に集まり みんなで 福祉へ!

新宿の仲間たち!

またもおおきな成果をかちとったぞ!

きのう、ひらかれる予定だった、福祉事務所

所長会議をおれ達は、おれ達の力でついにぶ

つぶしたんだ。

新宿からは、約四十名の仲間が、新たな二

一七を準備しようとするこの福祉事務所長

会議に対し、「二度と叩き出しをさせるか!」

という思いで、九段の区政会館に向かった。

一方、山谷からも、新宿の仲間の闘いを支え、

アオカン労働者の新たな叩き出しを許さんと、

大型バスでアオカンの仲間約九十名が九段に

集結した。

福祉事務所会の幹事会は午後一時半、全体

会が、二時から開催される予定だった。とこ

ろが、昼すぎ、おれ達が、区政会館前に

現われると区政会館の本館の入口は閉じられ、

シャッターは、全て下ろされ、なんと、入口

の前には「本日の福祉事務所長会議は中止に

なりました」との看板が出ているじゃないか。

会館の周辺にたむろした、警備員や、ポリ公

どもが、おれ達ににらみをきかせるが、奴ら

の敗北感は明白だ。

「おれ達は、勝利した!」

「福祉事務所会議をぶっつぶしたぞ!」

おれ達は、区政会館前にある公園で、勝利

集会をぶちぬいた。

新宿、山谷でのこの間のたたかいを報告し

あい、新宿・山谷を貫いて、今後再び画策さ

れるだろう「都区検討会」「実態調査」をこ

の仲間の力でぶっつぶしてやろうと確認しあ

ったぞ!

おれ達は「都区検討会」粉碎の第一段のた

たかいに勝利したんだ。

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班

☎3872-7109 / 3876-7073



「都区検討会」は、この間のビラで明らかにしてきたように、東京都と、二十三区の福祉事務所が共同で、当事者の声もきかずに、おれ達アオカン労働者を「どうにかしよう」と、画策する会議だ。労働政策や、福祉政策の失敗など、自分らの責任を棚にあげ、「大都市問題」だとか勝手な「問題」をデッチ上げ、おれ達を叩き出し、分散させ、どう人目につかずにおれ達を「処分」できるかを検討するということんでもない会議だ。

この「都区検討会」の再開と、協力を各区にお願いする場としてあった、昨日の福祉事務所長会議がぶつつぶされた。「都区検討会」は、各区の合意を得ることなく、今月中の再開はほぼ、不可能になったんだ。

福祉事務所長会の中止は、新宿福祉が、おれ達が区政会館に抗議に行くことを知って、あわてて、福祉事務所長会の幹事に「混乱が予想されるから中止してくれないか」と泣きついて中止にさせたらしい。二月十七日行なった、叩き出しとセットになった「法外へたつた二週間の大田寮への収容」援護の実態を、当事者の声として、暴露されることを恐れた新宿福祉が慌てて中止にさせたのだ。他

の福祉事務所は、新宿福祉がやった事をまだ知らされてない。当事者の声を聞けば、どれだけひどいことをしたのかは、誰にでも明らかだ。新宿福祉はそれをひた隠そうとヤツキなんだ。

だが、おれ達は、二月十七日、新宿福祉が行なった行為を決して忘れはしない。叩き出し、一時しのぎの収容をし、その後、何の保障もせず放り出されたことを決して忘れはしない。

東京都が、新宿福祉が、二・一七を謝罪し、

宿泊所名	所在地	収容人数	宿泊料
山手レストハウス	百人町1-9-5	84名	1,400
養精館	百人町1-7-25	100名	1,400
淀橋館	百人町1-7-24	45名	1,500
きくや旅館	百人町1-13-3	50名	1,300
誠和荘	百人町1-13-21	53名	1,400
宝来荘	百人町1-13-20	20名	1,400
大久保ハウス	百人町1-11-32	80名	1,700
大久保ベッドルーム	百人町2-3-15	40名	2人 1,300 個室 2,000
第1戸山荘	百人町2-3-20	40名	ベッド 1,900 個室 3,000
第2戸山荘	百人町1-7-25	6名	個室 3,000
かじか荘	百人町1-7-25	6名	個室 3,000
おとめ荘	百人町1-8-8	10名	800

叩き出しのための「都区検討会」を解散するまで、おれ達は、東京都と、新宿福祉に対するたたかいを続けるだろう。

新宿福祉は、窮地に立っている。おれ達は、毎週、福祉行動を行なって、新宿福祉に圧力をかけている。おれ達の力で、新宿福祉に最終的に悲鳴をあげさせよう。

仲間たち！明日（二十二日）も、新宿福祉行動を行なうぞ。この間、多くの病をかかえた仲間と一緒に、福祉に押しかけ、生活保護を

新宿福祉で居宅保証を出している新宿区内のドヤリスト。  
こゝにドヤがあるから、むと使わせようじゃないか!!

具体的にかちとっている。奴らは施設がないとかを理由に、居宅保護には、消極的だ。その結果、多くの仲間がアオカンしながら通院なんてひどい対応をされている。が、新宿区内でもこれだけのドヤがある。そこで保護を受け、通院している仲間も多い。入院するほどでもない仲間は、ドヤからの通院を是非かちとろう。病を抱えた仲間を支え、共に福祉行動に！明日朝九時半「新宿の目」結集だ。



おれたちは新宿の労働者だ！5月1日はメーデーだ！  
(労働者の日)

# 新宿で生きぬくー<sup>つど</sup> 5/1(日)労働者の集いへ

夜7時〜西口地下生命前・電話の広場

## 新宿と山谷の仲間が力をあわせ 次なる叩き出し計画をすすぶろう

新宿の仲間たち！

先週の20日、「都区検討会」(新たな叩き

出しを目標む会)を準備するために開かれる

予定だった福祉事務所長会議をおれ達と、山

谷の仲間の団結の力でぶつつぶした。今、新

宿区と東京都は大あわてだ。所長会議が中止

になった結果、東京都と区の矛盾(責任のな

すりあい)が更に広まり、「都区検討会」再

開のめどすらたたなくなつた。

おれ達は、2・17の叩き出しを、決して忘

れやしない。おれ達を再度叩き出す東京都の

目論みは、同じように次々と叩きつぶしてや

る。

おれ達はこの団結の力で、先週の木曜日夜

の労働者パトロールをやりきり、翌金曜日に

は新宿福祉行動を行なつたぞ。先週は4人の

病を抱えた仲間を支え、消耗感一杯の新宿福

祉に出向いた。当日は、山谷の仲間90人も応

援にかけつけてくれ、新宿福祉を追及しなが

ら、3人の、生活保護をかちとつた。

そして、昼すぎには、新宿西口地下で新宿

山谷の仲間あわせて百人以上の大部隊でピラ

まき、カンパ活動をおこなつた。カンパは総

額二万一千二十二円も集まつた。多くの市民

がおれ達のたたかいを支持してくれている証

拠だ。カンパはおれ達新宿での取り組み(毛

布、ダンボール、昼飯代など)に全額つかつ

てくれるようにと「山谷と新宿をつらぬく反

失業闘争実行委員会(準)」から手渡された。

新宿の仲間も、山谷や、他の駅でアオカン

している仲間も皆同じ気持ちで今、たたかい

にたちあがっている。多くのアオカンの仲間

が更に団結しあい、たたかいをもっと、もっ

と押しひろげよう！

連休を仲間どうしで支えあい

来週金曜(5/6)の新宿福祉行動をやりきろう

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班  
☎3872-7109/3876-7073



明日からゴールデンウィークが始まる。仕事がなくアオカンせざるを得ないおれ達にとっては「ありがた迷惑」な時期でもある。仕事をさがしたくても職安は休み、手配師もこない。困って福祉にかけこみたくっても、福祉も閉まっている。

こんな時期だからこそ、おれ達、アオカンしている仲間のつながり、団結が大事になってくる。

行政に頼ってられないのだから、おれ達は自前の団結で、仲間うちの力で、いろんな問題を解決していこうじゃないか。

例えば、体の弱い仲間や、高齢の先輩がひとりぼっちでいたら、声をかけ、知りあいに

なり、一人で飯をさがせにいけないのなら、みんなで一緒にさがしにいくとか、本場に厳しい仲間がいたら救急車を呼んで、一緒に病院まで行くとか、みんなで支えあい、横のつながりを作っていこう。おれ達人パト班も、

山谷の仲間も出来るだけのこととする。みんな協力しあい、このゴールデンウィークを

みんなの力で乗り切ろう  
繁華街がまわりにほとんどない山谷では、仲間が力をあわせて毎日炊き出しを自分らで

## 新宿福祉から居宅保護を だしているドヤのリスト〈訂正版〉

宿泊所名	所在地	収容人数	宿泊料
山手レストハウス	百人町1-9-5	84名	1,500
淀橋館	百人町1-7-24	45名	1,800
きくや旅館	百人町1-13-3	50名	1,300
誠和荘	百人町1-13-21	53名	1,400
宝来荘	百人町1-13-20	20名	1,400
新大久保ベッドルーム	百人町2-3-15	40名	1,300

1年前には11軒あったドヤも、4年の間に5軒がつぶれてしまった。  
新宿区内にドヤが見つからなければ、他の区でドヤを居宅保護にすればよ。  
課長の武山はこれをしがっている。みんなの力で新宿福祉をかえよう!

連休はおれたちにとって「ありがた迷惑」だ。  
休日は新宿福祉の窓口も閉じられてしまう。  
あすの金曜日は、新宿福祉行動ができない。  
連休中を仲間どうしの団結した力で生きぬき  
来週金曜・6日の新宿福祉行動をやりまろう!

作って、腹をこしらえ、一緒にアオカンしながら何にもしない行政に対してたたかいたちあがっている。上野でも今まで切り捨てられてきた仲間が台東福祉に毎週押しかけ、生活保護をかちとるたたかいにたちあがっている。  
新宿五百、山谷四百、上野三百、都下あわせて二千人を超えるアオカンの仲間が今、「殺人行政」に対して声をあげ始めている。仲間の力をあわせ、仲間の声をあわせ、頑張っていこう。

5月1日は、労働者の日、メーデーだ。こんな日におれ達アオカン労働者がなにもやらんわけにはいかん。おれ達の自前の団結を深め、そして、社会におれ達の声を訴えよう!  
連休明けにおれ達を叩きだす「都区検討会「実態調査」の動きが出てくると思う。5・1の集りでおれ達は力を蓄え、連休を乗りきり、連休明けのたたかいに向かっていこう!  
5・1は午後7時から西口地下の「電話の広場」前でやるぞ(いのけんと合同だ)。みんな飯をくいながら団結を深めよう!



# 東京都の叩き出しに抗する 野宿労働者の闘いに支援を

すべての皆さん！私たちは、東京都・新宿区が一体となった、アオカン（野宿）労働者への叩き出しに連続して抗議の声を上げてきている団体です。

二月一七日の、都—新宿区一体となった大掛りな「叩き出し作戦」から二ヶ月が過ぎ、そのあまりにも露骨な「作戦」の意図が、社会的にも明らかにされ、都・区の施策に対する批判の声が多々な人々から上げられています。

二月一七日、都区は「環境整備」と「人命保護」を二本柱として掲げ、アオカン（野宿）労働者のダンボールや毛布、荷物の一切合切を奪い去り、寝起きしていた場所にフェンスや花壇を設置、一方で「都による事実上の締め出し」との批判の声をかわすために、多くの労働者を「緊急越冬対策」施設の大田寮に収容しました。

そもそも、「路上生活者対策」として立てられてきた都の政策は、何故に多くの労働者が野宿せざるを得ないのか、その根本の問題に触れようとせず、密集して野宿し生活する場所から追い散らし、ただただ孤立・分散させていこうという所からしか立てられてきませんでした。同時に、アオカン（野宿）する者は「働く意欲のない浮浪者」というレッテルを張り、責任の所在を野宿する労働者になすりつけ、社会から排除する意識的土壌を作りながら、人々の目をそらせようとしているのです。

アオカン労働者への「叩き出し」は、他人事として済ませるわけにはいきません。高度経済成長期、社会の基礎を築くために、地方や農村から労働者を都市に流出させ、日雇労働者として寄せ場にとどめ、必要なだけ労働力を酷使しつくした挙句、必要なくなれば切り捨てていく、そうしたこの国の労働政策。その結果として、不況と高齢化が多くの日雇労働者の足下をすくい、都下一五〇〇人も野宿労働者が生みだされたのです。新宿でアオカンする労働者の存在自体が、国の労働・福祉行政の無策を根本から批判していると言えるのです。

新宿の野宿労働者は、叩き出しに真向から立ち向かい、「おれたちは新宿で生き抜くぞ！」と都・区への抗議行動を連続して闘い抜いています。「奪った荷物を返せ！」と都・建設局におしかけ、命を守る生活資財を取り戻す闘い、病を抱えた労働者を支え、新宿福祉で生活保護を勝ちとる闘いを貫き、労働者どうしの結束をますます強めています。

十日間で一人の労働者が、駅で野垂れ死にを強いられるという「緊急事態」が一年以上にわたって続いていたにもかかわらず、何らの保護政策も打たず、放置してきた都・区の無施策を糾弾し、抗議の声を上げていっているのです。

四月一日には、駅構内で「東京都の叩き出しを許さない労働者の集い」に一五〇人の野宿労働者が結集し団結を固め、さらに一〇日には、新宿エルタワーでの屋内集会に百人が集い、さらなる闘いへの意志を確認しました。

都は、次なる二・一七を準備する「路上生活者問題に関する都区検討会」を設置し、叩き出し作戦の謀議を重ねようとしています。「都区検討会」の開催を許さず、私たちは新宿でねばり強く闘いを続けていくつもりです。

多くの皆さんが、私たちの闘いに賛同され、しょうごりもなくダンボール、荷物の「撤去」—強奪を繰り返す行政に、抗議の声を上げるように呼びかけます。新宿の野宿労働者の闘いに、心ある支援をお願いします。

山谷労働者福祉社会館・人民パトロール班

台東区日本堤 1-25-11

☎ 3872-7109 / 3876-7073

郵便振替口座 東京 4-715883



